

福島県文化財センター白河館
年報 ～平成30年度実績～

公益財団法人福島県文化振興財団

発 刊 に よ せ て

「見て・触れて・考え・学ぶ体験型フィールドミュージアム」として2001年にオープンした福島県文化財センター白河館（愛称「まほろん」）は、本年7月で、開館以来18年を経過しました。

本書は、白河館の2018（平成30）年度の事業実績を総括するものです。

館内外での利用者数は、35,846名と、東日本大震災発生後の8年間で最多となりました。その一方、記録的猛暑に見舞われた夏季には、不要不急の外出が自粛されたこともあって、白河市内からの来館者数が大きく落ち込みました。

2018年度は、企画展を4回開催しました。まず、学校による利用が多い春季には、子ども向けに特化した「JOMONワンダーランド」を開催しました。夏季の「縄文土器の逸品」や、白河市との共催により秋季に開催した「白河市天王山遺跡の時代」では、広く県外からの来館者にも恵まれました。冬季の「はま・なか・あいづ再生史」では、遺跡に残る災害痕跡や史料に基づき、縄文時代から明治期までに福島県域で起こった自然災害と、その克服の歴史に焦点を当て、各方面から高い評価をいただきました。全国各地で災害が頻発している今こそ、いよいよ歴史に学び、防災への意識を高める必要があると考えます。

まほろんで5か年にわたって実施してきた放射性炭素年代測定と炭素・窒素安定同位体比分析の作業は、昨年度に無事終わることができました。その成果は『研究紀要2018』に掲載したほか、2019年度の企画展でも公開しております。今後は、得られたデータの意味を、あらためて考古学の側面から再検討していく事が重要になると考えています。

私自身は、昨年度も、お子様連れのご家族の方々と親しく触れ合う機会を得ることができたほか、館長講演会では、その時々企画展などに関連したテーマをお話しさせていただき、ご来場の皆様との有意義な意見交換を楽しむことができました。

なお、昨年度は第3期指定管理期間の5か年間の最終年度でありました。幸い、2019年度からの指定管理業務につきましても、引き続き私たち公益財団法人福島県文化振興財団がその任に当たる者として選定されました。福島県の歴史と文化を未来につなぐべく、職員一同、これからも鋭意努力する所存です。皆様には、変わらぬご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2019年12月

公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館
館 長 菊 池 徹 夫



丸木舟づくりリョウナ初めの式



指定文化財展「白河市天王山遺跡の時代」

目 次

第1章 白河館の概要		
1 白河館の業務	1	
2 白河館の沿革	1	
3 平成30年度の主な行事	2	
4 東日本大震災の影響	2	
第2章 管理業務の実施状況及び利用状況		
1 利用状況	3	
1. 利用者数	3	
2. 入館者数の内訳と傾向	3	
2 維持管理に関する業務	5	
1. 建築物・設備・環境衛生・ 外構等保守管理業務	5	
2. 施設・設備等の修繕状況	5	
3. 備品・物品管理業務	5	
3 文化財の収蔵・保管に関する業務	6	
1. 収蔵資料	6	
2. 資料貸し出し	6	
3. 写真掲載等承認	6	
4. 資料閲覧	7	
4 文化財の活用に関する業務	8	
1. 常設展示	8	
2. 企画展示	10	
3. 講演会等	17	
4. 体験学習・イベント	19	
5 文化財に関する情報発信	24	
1. ホームページによる情報発信	24	
2. データベースによる情報提供	24	
3. まほろん通信の発行	24	
6 文化財に関する研修事業	25	
1. 研修実施の概要	25	
2. 研修実施状況	25	
7 文化財の活用に関する調査研究	27	
1. 放射性炭素年代測定と炭素・窒 素安定同位体比分析	27	
2. 研究紀要	27	
8 ボランティアの運営	27	
1. 募集	27	
2. 登録	27	
3. 活動内容	27	
4. 受け入れ体制	28	
9 その他	28	
1. 年報2018の発行	28	
2. 運営協議会の開催	28	
3. 博物館実習	28	
4. 被災ミュージアム再興事業	28	
5. 他機関との連携	28	
第3章 平成30年度の組織と管理運営費		
1 組織	30	
2 管理運営費	30	
第4章 白河館施設の概要	31	
第5章 白河館の条例・規則		
1 福島県文化財センター白河館条例	33	
2 福島県文化財センター白河館条例 施行規則	33	
白河館の利用案内	34	

第1章 白河館の概要

1 白河館の業務

福島県文化財センター白河館（愛称「まほろん」。以下「白河館」と表記する。）は、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県が設置した文化施設で、平成13年7月に開館した。

白河館は、福島県教育委員会が発掘調査した遺跡で出土した遺物や記録写真、図面などの資料を収蔵・保管し、それを展示・体験学習等に活用すると共に、文化財を担当する市町村職員等の文化財研修、文化財に関する情報発信等の役割を担っている。

福島県は、開館から平成17年度まで、財団法人福島県文化振興事業団に館の管理運営業務を委託していたが、平成18年度から指定管理者制度を導入し、管理運営業務を行う法人等を広く公募することにした。第1期（平成18年度から平成20年度まで）は財団法人福島県文化振興財団が指定管理者に選定され、以降、第4期の現在に至るまで、同財団が管理業務を担っている。

条例に定める館の業務は、以下のとおりである。

- 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- 白河館の維持補修及び管理に関すること。
- 上記の他に、福島県教育委員会が別に定める業務。

なお、令和元年度からは、出土文化財の保存処理等に関する業務が追加されている。

白河館は貴重な文化財を様々な形で活用する施設であり、文化財の復元研究や体験学習活動を全国に先駆けて実施してきた。また、「遺跡から学ぶ自然と人間のかかわり」をメインテーマとして、“見て・触れて・考え・学ぶ”体験型ミュージアムを目指している。

2 白河館の沿革

平成6年度

福島県文化財保護審議会が、「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年4月1日

福島県が財団法人福島県文化振興事業団に管理運営を委託

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成18年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が財団法人福島県文化振興事業団に3か年の管理運営を委託（平成21年3月31日まで）

平成19年4月14日 入館者20万人到達

平成21年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が財団法人福島県文化振興事業団に5か年の管理運営を委託（平成26年3月31日まで）

平成22年4月25日 入館者30万人到達

平成22年9月10日

開館以来館長を務めた藤本強館長が急逝。平成23年3月31日まで、館長職を福島県文化振興事業団富田孝志理事長が兼務

平成23年3月11日
東日本大震災発生。館内に被災箇所あり。4月30日まで臨時休館

平成23年4月1日 菊池徹夫新館長就任

平成23年5月1日
震災被害により使用できなくなった一般収蔵庫及び野外展示施設を除き、再開館

平成24年4月15日
野外展示施設修繕完了、使用を再開

平成24年5月3日
一般収蔵庫修繕完了、使用を再開

平成24年5月19日
開館10周年記念事業を実施

平成26年2月8日 入館者40万人到達

平成26年4月1日
「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が公益財団法人福島県文化振興財団に5か年の管理運営を委託（平成31年3月31日まで）

平成27年12月5日 入館者45万人到達

平成28年9月25日
開館15周年記念事業を実施

平成29年9月2日 入館者50万人到達

3 平成30年度の主な行事

平成30年4月21日～6月17日
収蔵資料展1「JOMONワンダーランド」

平成30年5月3日～5日 GWまほろんまつり

平成30年7月7日～9月2日
収蔵資料展2「縄文土器の逸品」



GWまほろんまつり

平成30年7月22日 まほろん夏まつり

平成30年9月29日～11月25日
指定文化財展「白河市天王山遺跡の時代」

平成30年11月18日 まほろん感謝デー

平成30年12月15日～平成31年3月17日
ふくしま復興展「はま・なか・あいづ再生史」

平成31年2月17日 まほろん冬まつり



「はま・なか・あいづ再生史」ポスター

4 東日本大震災の影響

福島県教育委員会は、東日本大震災により被災した博物館の収蔵資料を保管するための文化財仮保管施設を白河館の敷地内に設置している。本施設には、福島県被災文化財等救援本部等により救出された、富岡町歴史民俗資料館・大熊町民俗伝承館・双葉町歴史民俗資料館の収蔵資料が保管されている。

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

1 利用状況

1. 利用者数

平成30年度の総利用者数は、35,846名（平成29年度34,462名）で、前年度に比べ1,384名の増加となった。入館者数は、26,731名（平成29年度28,102名）、館外利用者数は、9,115名（平成29年度6,360名）であった。

入館者数については、前年度に比べ団体入館者が243名増加したが、個人利用者は1,614名減少した。年4回開催の「まほろんイベント」の延べ入館者数は3,702名（平成29年度4,461名）で、759名減少した。

館外利用については、小・中学校等の教育機関を対象とする「おでかけまほろん」を34箇所、公民館等の生涯学習施設を対象とする「まほろん出前講座」を4箇所、地域のイベント等を対象とする「まるとまほろん」を7箇所で開催した。これらの人数は、4,217名（平成29年度4,532名）と前年度から315名減少したが、福島市・富岡町・楡葉町の4会場で開催したまほろん移動展「被災地の文化財―双葉高校史学部のあゆみ―」は総来場者数が4,695名にのぼり、

その他の研修会等を含めた館外利用者の総数は、前年度に比べ2,755名増加した。

2. 入館者数の内訳と傾向

入館者数は、26,731名（平成29年度28,102名）となった。

（1）地域別利用状況

入館者の地域別利用者は、県内が21,743名（平成29年度23,747名）で81.3%（平成29年度84.5%）、県外が4,988名（平成29年度4,355名）で18.7%（平成29年度15.5%）であった。白河市内からの入館者数は9,860名（平成29年度11,406名）で前年度に比べ1,546名減少したが、県外利用者は東日本大震災以降では最多を記録した。

（2）年齢別利用状況

幼児、小・中学生、高校生が11,417名で、入館者全体の42.7%（平成29年度40.9%）、一般の入館者数は15,314名で、入館者全体の57.3%（平成29年度59.1%）となり、前年度に比べ、高校生以下の入館者の割合が増加した。

月別入館者数

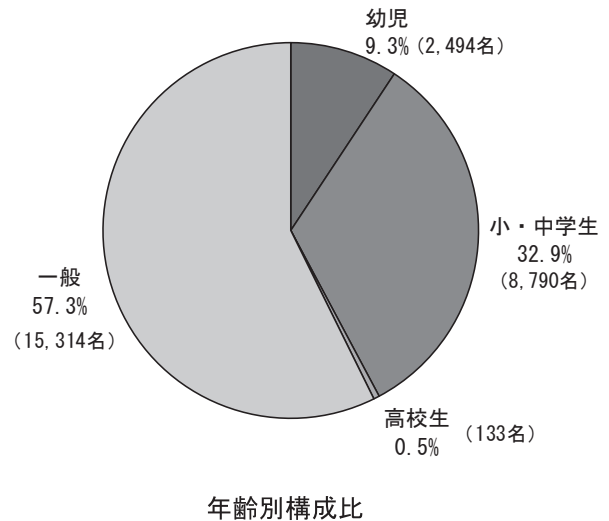
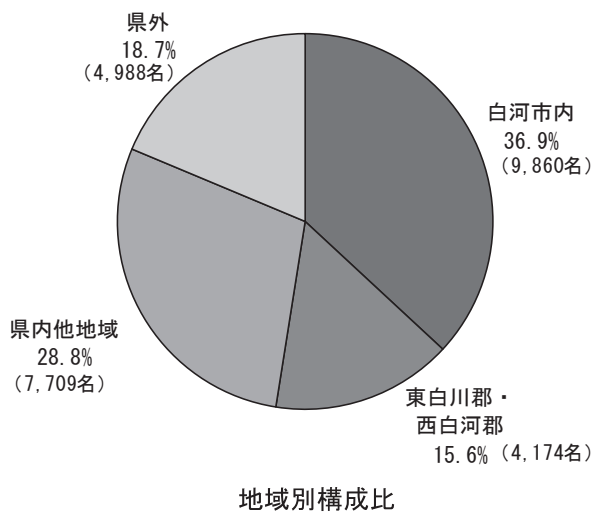
平成30年度	年齢別属性		地域別属性		入館者	館外利用者	総利用者数 (合計)	平成29年度	
	幼小中高	一般	県内	県外				入館者	館外利用者
4月	1,331	1,207	2,215	323	2,538	80	2,618	2,376	259
5月	1,420	1,946	2,815	551	3,366	1,034	4,400	3,283	166
6月	1,818	1,262	2,557	523	3,080	414	3,494	2,976	1,607
7月	921	1,420	1,901	440	2,341	1,376	3,717	3,060	275
8月	1,213	1,753	1,691	1,275	2,966	1,185	4,151	2,901	1,563
9月	979	1,273	1,832	420	2,252	151	2,403	2,353	140
10月	880	1,125	1,741	264	2,005	1,154	3,159	1,914	2,205
11月	712	1,648	2,071	289	2,360	3,171	5,531	2,511	98
12月	482	803	1,008	277	1,285	71	1,356	1,401	18
1月	497	663	1,054	106	1,160	239	1,399	1,443	0
2月	643	1,026	1,548	121	1,669	142	1,811	2,548	0
3月	521	1,188	1,310	399	1,709	98	1,807	1,336	29
合計	11,417名	15,314名	21,743名	4,988名	26,731名	9,115名	35,846名	28,102名	6,360名

(3) 団体利用状況

入館した団体数は211団体（平成29年度は207団体）、団体による来館者数は7,854名（平成29年度7,611名）となり、前年度から243名

増加した。

団体利用のうち、学校関係は5,329名（平成29年度5,374名）で、前年度から45名減少した。



団体利用者一覧

団 体			平成30年度													平成29年度
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	合計
学校関係	幼稚園・保育園	園数		1	2				1	2	2		1	2	11	5
		来館者数		22	31			16	57	40			17	31	214	110
	小学校	学校数	20	12	25	2		7	5		2	6	3		82	85
		来館者数	861	305	1,644	73		501	523		42	205	121		4,275	4,434
	中学校	学校数			1		1	1			1				4	3
		来館者数			8		63	56			146				273	416
	高等学校	学校数														
		来館者数														
	養護学校	学校数		1						2					3	
		来館者数		18						16					34	
生涯学習関係	大学	学校数					2			1					3	5
		来館者数					30			27					57	142
	幼小中高PTA（保護者のみ）	学校数														
		来館者数														
	幼小中高PTA（親子レク等）	学校数				5		2		1	1				9	5
		来館者数				266		57		74	79				476	272
	研究会	会数		1				1							2	1
		来館者数		19				34							53	28
	子ども会	会数	1		1	2	4	1							9	6
		来館者数	26		19	99	220	59							423	348
社会福祉関係	公民館等	館数		1	2	4	2	1	3	3	1				17	21
		来館者数		35	53	83	45	12	64	51	23				366	461
	福祉施設・デイケアサービス	団体数	2	2	5	4	1	1	5	2	3			2	27	34
		来館者数	29	20	58	43	28	11	69	29	20			172	479	412
	資料館等	館数			2										2	1
		来館者数			36										36	20
	歴史研究	団体数		1			1	1							3	1
		来館者数		28			10	26							64	25
	県・市町村・教委・審議会等	団体数			1			1	1	1					4	5
		来館者数			6			7	12	16					41	90
その他	その他	団体数		3	2	6	7	6	6	3	1			1	35	35
		来館者数		53	29	120	388	94	102	33	62			182	1,063	853
合計	団体数		23	22	41	23	18	23	22	15	9	6	4	5	211	207
	団体来館者数		916	500	1,884	684	784	873	827	286	372	205	138	385	7,854	7,611
	総来館者数		2,538	3,366	3,080	2,341	2,966	2,252	2,005	2,360	1,285	1,160	1,669	1,709	26,731	28,102
	団体利用者の割合（％）		36.09%	14.85%	61.17%	29.22%	26.43%	38.77%	41.25%	12.12%	28.95%	17.67%	8.27%	22.53%	29.38%	27.08%

2 維持管理に関する業務

1. 建築物・設備・環境衛生・外構等保守管理業務

「福島県文化財センター白河館の維持管理に係る業務仕様書」に則し、下記のとおり実施した。

- (1) 空調設備点検業務
常光サービス（株）
- (2) 消防用設備等保守点検業務
車田電気工業（株）
- (3) 簡易型昇降機及びリフター保守点検業務
常光サービス（株）
- (4) 自動ドア保全業務
常光サービス（株）
- (5) 自家用電気工作物保安管理業務
（一財）東北電気保安協会福島事業本部
- (6) 展示用及び講堂用A V機器保守点検業務
（株）オリエンタル・エージェンシー
- (7) 植栽管理業務
堀田造園（有）
- (8) 清掃業務
（株）タイセークリーン
- (9) 警備業務
ALSOK福島（株）
- (10) 電話設備等点検業務
（株）ユニテック
- (11) 除雪業務
（有）猪越土木

2. 施設・設備等の修繕状況

- (1) 平成30年6月6日
消防用設備等修繕
- (2) 平成30年6月10日
撮影室エアコン修繕
- (3) 平成30年6月28日
簡易型昇降機フォールデンゲート修繕
- (4) 平成30年7月6日
撮影室エアコン室外機修繕
- (5) 平成30年7月16日
空調室外機外板パネル止めボルト等修繕
- (6) 平成30年8月7日
屋内男子トイレ小便器感知フラッシュバルブ修繕

- (7) 平成30年10月18日
簡易型昇降機フォールデンゲートレール修繕
- (8) 平成30年10月19日
空調室外機ガスケット取替修繕
- (9) 平成30年10月31日
一般収蔵庫照明設備修繕
- (10) 平成31年1月11日
一般収蔵庫通路誘導灯修繕
- (11) 平成31年1月25日
特別収蔵庫空調機用送風機修繕
- (12) 平成31年3月4日
一般収蔵庫通路誘導灯修繕
- (13) 平成31年3月8日
駐車場外灯設備修繕
- (14) 平成31年3月20日
ハンドホール修繕
- (15) 平成31年3月26日
野外展示「縄文時代の家」入り口修繕
- (16) 平成31年3月28日
消防設備等修繕



野外展示「縄文時代の家」

3. 備品・物品管理業務

基本協定書別表「管理財産一覧」について適正に管理した。

3 文化財の収蔵・保管に関する業務

1. 収蔵資料

	遺 物	写 真	図 面	地図・カード類	無形の文化財関連	合計(箱)
一般収蔵庫	50,620	3,356	1,200	525	10	55,711
特別収蔵庫	801					801
合計	51,421	3,356	1,200	525	10	56,512

※1 一般収蔵庫の収容能力は最大66,000箱

※2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属質遺物を収納

2. 資料貸し出し

(1) 遺 物 (14件)

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量 (点)
平30.2.2～平30.7.23	東北歴史博物館（特別展「東大寺と東北」）	玉川村江平遺跡出土横笛ほか	2
平30.4.1～平31.3.31	原町火力発電所（常設展示）	南相馬市大船迫A遺跡出土砂鉄ほか	23
平30.4.1～平31.3.31	須賀川市立博物館（常設展示）	須賀川市梅田横穴古墳出土須恵器	1
平30.4.1～平31.3.31	白河市歴史民俗資料館（常設展示）	白河市一里段A遺跡出土石器ほか	5
平30.4.1～平31.3.31	大安場史跡公園（常設展示）	郡山市弥明遺跡出土石器	5
平30.4.1～平31.3.31	福島県立博物館（常設展：継続分）	桑折町平林遺跡出土石器ほか	1,248
平30.4.1～平31.3.31	福島県立博物館（常設展：新規分）	会津若松市西木流C遺跡出土須恵器線刻横瓶ほか	2
平30.6.19～平30.9.12	東京国立博物館（特別展「縄文ー1万年の美の鼓動」）	郡山市荒小路遺跡出土土偶	1
平30.6.22～平30.8.31	三春町歴史民俗資料館（夏季展示「縄文の美ー忘れ去られた造形ー」）	三春町柴原A遺跡出土土偶	1
平30.7.24～平31.3.31	福島県立博物館（テーマ展「うるわしのうるしのうつわ」）	下郷町南倉沢遺跡出土土器ほか	3
平30.8.17～平30.12.27	大田原市教育委員会（大田原市なす風土記の丘湯津上資料館企画展「那須のくろがね」）	泉崎村関和久上町遺跡出土土器ほか	82
平30.8.19～平30.11.30	津南町教育委員会（なじよもん秋季企画展「火焰土器の魅力」）	天栄村桑名邸遺跡出土土器ほか	6
平30.11.21～平31.1.25	那珂川町なす風土記の丘資料館（特別陳列えと展「亥を考古学する」）	富岡町本町西A遺跡出土縄文土器	1
平30.12.12～平31.3.31	福島市振興公社（企画展「福島市の弥生遺跡」）	福島市孫六橋遺跡出土土器ほか	18
		合 計	1,398

(2) 模型及びレプリカ (5件)

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量 (点)
平30.2.2～平30.7.23	東北歴史博物館（特別展「東大寺と東北」）	玉川村江平遺跡出土横笛ほか	6
平30.4.1～平31.3.31	慧日寺資料館（テーマ展示「縄文文化の十字路・法正尻とその周辺遺跡」）	磐梯町法正尻遺跡パネルほか	11
平30.4.1～平31.3.31	福島県立博物館（常設展示・継続分）	梵鐘復元品ほか	10
平30.5.9～平31.3.31	福島県立博物館（常設展示・古代、復元鉄製品）	鉄製鋤復元品ほか	3
平30.8.17～平30.12.27	大田原市教育委員会（大田原市なす風土記の丘湯津上資料館企画展「那須のくろがね」）	獣脚付容器復元品ほか	2
		合 計	32

3. 写真掲載等承認 (30件)

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量 (点)
平30.4.10	会津美里町教育委員会教育長（会津美里町『歴史副読本』）	白河軍団兵士復元・軍団備品写真	2
平30.4.23	ふくしま海洋科学館館長（アクアマリンふくしまHP：ナイトプログラム募集チラシ）	常設展示・縄文時代の食卓写真	1
平30.5.18	くもん出版（くもん出版『歴史ごはん』）＊株式会社ワード	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器写真	1
平30.6.7	小学館 和楽 編集長（小学館『和楽』8・9月号）	郡山市荒小路遺跡出土土偶写真	1
平30.7.4	株式会社はる制作室（TJMOOK『いまこそ知りたい縄文時代』）	飯館村上ノ台A遺跡竪穴住居跡写真	1
平30.7.4	講談社（講談社現代新書『戦乱と民衆』）	白河軍団兵士写真	1
平30.7.4	(株)羽根木 ((株)ダイアプレス『縄文時代の歩き方』)	飯館村日向南遺跡縄文土器写真	6
平30.7.18	木簡学会会誌『木簡研究』40号	会津若松市鶴沼B・C遺跡木簡写真・図	6
平30.7.23	(株)アフロ ((株)西北出版『2018年大進研センターファイナル模試[日本史B]』)	磐梯町法正尻遺跡出土大珠写真	1
平30.8.8	L I N E 株式会社（ライブドアニュース「縄文ニックネーム会議」企画）	郡山市荒小路遺跡出土土偶写真	1

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量 (点)
平30.8.8	津南町教育委員会教育長（なじょもん秋季企画展「火焔土器の魅力」）	磐梯町法正尻遺跡出土土器写真ほか	9
平30.8.21	大田原市教育委員会教育長（大田原市なす風土記の丘湯津上資料館企画展「那須のくろがね」）	泉崎村関和久上町遺跡出土土器写真ほか	42
平30.8.31	(株)ネクサス（テレビ東京「開運！なんでも鑑定団」土偶の歴史や魅力を解説するガイドVTR放送）	郡山市荒小路遺跡出土土偶写真	1
平30.9.12	(株)光文書院「社会科資料集6年」	弥生時代の鍬 復元品写真	1
平30.11.8	木簡学会会誌『木簡研究』40号	会津若松市鶴沼C遺跡写真	2
平30.11.9	喜代吉 榮徳『『駄家通信』創刊号』	金銅製双魚佩の実測図	1
平30.11.18	(株)悠工房「さいたま市学習状況調査『中学校第1学年』中1社会」	三角縁神獣鏡（復元・裏）	1
平30.11.18	那珂川町なす風土記の丘資料館「なす風土記講座に伴う講演『那須地域を中心とした食について』配布資料」	白河館内展示写真	46
平30.11.18	那珂川町なす風土記の丘資料館「特別陳列 えと展『亥を考古学する』」	郡山市荒小路遺跡出土土製品ほか写真	3
平30.12.27	中島村教育委員会（「四穂田古墳出土品」パンフレット）	白河市筑内古墳出土土馬具ほか写真	4
平31.1.22	湯川村教育委員会（「湯川村の古代～中世」）	湯川村桜町遺跡遺構写真	1
平31.1.22	(株)吉川弘文館（平川南『新しい古代史1 地域に生きる人びと』）	軍団兵士写真	2
平31.2.13	育鵬社（『新編 新しい日本の歴史』）	白河館常設展示及び食卓再現写真	8
平31.2.13	郡山市教育委員会「中学校版 ふるさと郡山の歴史」	郡山市荒小路遺跡出土土偶写真	1
平31.2.13	埼玉県立さきたま史跡の博物館（テーマ展）	白河軍団兵士ほか写真	3
平31.2.25	岩手県立博物館（テーマ展）	南相馬市長瀬遺跡遺構写真ほか	15
平31.3.15	株式会社新泉社（シリーズ「遺跡を学ぶ」）	矢吹町弘法山古墳群横穴写真ほか	1
平31.3.20	白河市教育委員会（白河市埋蔵文化財調査報告書）	白河市筑内37号横穴墓出土土馬具復元写真ほか	1
平31.3.20	南相馬市教育委員会（泉官衙遺跡案内看板）	野外展示「奈良時代の倉庫」写真	1
平31.3.20	石川町教育委員会（石川町歴史文化基本構想）	石川町源平C遺跡全景写真ほか	7
		合 計	171

4. 資料閲覧

(1) 遺 物 (25件)

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量 (点)
平30.4.30	県内研究者（調査研究）	郡山市正直A遺跡出土須恵器	1
平30.5.8	県外研究者（企画展の事前調査）	南相馬市長瀬遺跡出土羽口ほか	191
平30.6.23	県内研究者（企画展の事前調査）	会津美里町下谷ヶ地平C遺跡出土土器ほか	158
平30.6.30	県外研究者（調査研究）	天栄村深沢A遺跡出土土器ほか	81
平30.7.3	県外研究者（調査研究）	会津美里町冨宮西遺跡出土土器ほか	67
平30.7.22	県外研究者（調査研究）	会津若松市駒板新田横穴群出土人骨	10
平30.7.27	県外研究者（調査研究）	相馬市大森A遺跡出土土器ほか	430
平30.8.4	県外研究者（調査研究）	郡山市弥明遺跡出土土器ほか	472
平30.8.25	県外研究者（調査研究）	浪江町中平遺跡出土陶器	521
平30.8.26	県内研究者（調査研究）	二本松市トロミ遺跡出土土器ほか	300
平30.8.26	県外研究者（調査研究）	檜葉町鍛冶屋遺跡出土土器ほか	80
平30.9.21	県内研究者（調査研究）	泉崎村関和久上町遺跡出土瓦ほか	20
平30.9.30	県外研究者（調査研究）	玉川村江平遺跡出土旧石器ほか	449
平30.10.28	県外研究者（調査研究）	小野町西田H遺跡出土縄文土器ほか	416
平30.10.30	県外研究者（調査研究）	富岡町本町西A遺跡出土縄文土器	2
平30.11.14	県内研究者（企画展の事前調査）	福島市孫六橋遺跡出土弥生土器ほか	74
平30.11.15	県内研究者（企画展の事前調査）	湯川村桜町遺跡出土弥生土器	3
平30.11.23	県外研究者（調査研究）	南相馬市萩原遺跡出土旧石器ほか	400
平30.12.22	県内研究者（調査研究）	矢吹町弘法山古墳群出土琥珀玉	15
平31.1.13	県外研究者（調査研究）	飯館村松ヶ平A遺跡ほか	2,243
平31.2.14	県外研究者（調査研究）	新地町鈴山遺跡出土炉壁ほか	20
平31.2.21	県外研究者（企画展の事前調査）	南相馬市大船迫A遺跡出土炉壁ほか	18
平31.3.14	県外研究者（企画展の事前調査）	郡山市荒小路遺跡出土土偶ほか	15
平31.3.15	県外研究者（企画展の事前調査）	南相馬市天化沢A遺跡出土土器ほか	40
平31.3.19	県外研究者（調査研究）	浪江町中平遺跡出土土器ほか	70
		合計	6,096

(2) その他 (1件)

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量 (点)
平30.4.11	県内研究者（企画展の事前調査）	古代の鉄製鋤・斧（復元品）	3
		合計	3

4 文化財の活用に関する業務

1. 常設展示

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ①「放射性炭素年代測定結果の公表～弥生土器～」
- ②「探してみよう福島の文化財」
- ③「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)

2) 常設展示室

- ①「めぐみの森」
- ②「暮らしのうつりかわり」
 - 〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
 - 〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
 - 〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
 - 〈旧石器時代〉
- ③「暮らしをささえた道具たち」
 - サブコーナー 〈まほろんビデオBOX〉

- ④「遺跡を掘る」
- ⑤「みんなの研究ひろば」
- ⑥「クイズ福島歴史発見」
- ⑦「のぞいてみよう福島の遺産」
- ⑧「話題の遺跡」
- ⑨「しらかわ歴史名場面」
- ⑩「国指定重要文化財 法正尻遺跡」
- ⑪映像展示

(2) 展示替え

平成30年度の展示替えは、別表一覧のとおりである。年度当初に作成した展示計画案をもとに、企画展や他の事業との関連を持たせる内容とした。

1) 放射性炭素年代測定結果の公表

平成29年度に測定を実施した試料の中から、主な弥生土器を選定し、計3回の展示を行った。

展示替え一覧

コ ー ナ ー	タ イ ト ル	開 催 期 間	所有者	備 考
放射性炭素年代測定結果公表	弥生土器① 桜町遺跡	平30. 4. 1～7. 1	福島県教育委員会	
	弥生土器② 桜町遺跡	平30. 7. 3～10.31	福島県教育委員会	
	弥生土器③ 桜町遺跡	平30.11. 1～平31. 3.31	福島県教育委員会	
みんなの研究ひろば	まほろんボランティア平成29年度の活動	平30. 4. 1～5.31		平成29年度からの継続
	古代会津と墨書土器・木製品	平30. 4. 1～7.20	福島県教育委員会	
	新地高校「大津波伝承の研究」	平30. 7.21～9.30	福島県立新地高等学校他	
	福島高校「鐵・刀・日本の文化の研究」	平30.10. 2～12. 2	福島県立福島高等学校他	
	「まほろん森の塾生」の活動	平30.12. 4～平31. 2.28		
	まほろんボランティア平成30年度の活動	平31. 3. 1～3.31		
話題の遺跡	トロミ遺跡	平30. 4. 1～7.30	福島県教育委員会	平成29年度からの継続
	縄文珍品展	平30. 7.31～9.23	福島県教育委員会	
	弥生土器の年代	平30. 9.25～平31. 1.18	福島県教育委員会	指定文化財展「白河市天王山遺跡の時代」関連展示
	東日本大震災復興関連遺跡の調査①	平31. 1.19～3.31	福島県教育委員会	
	鬼穴古墳	平31. 3. 1～3.31	矢吹町教育委員会	
しらかわ歴史名場面	泉川遺跡の縄文土器	平30. 4. 1～6. 5	福島県教育委員会	平成29年度からの継続
	白河市一里段A遺跡とその時代	平30. 6. 6～平31. 1.23	福島県教育委員会	
	白河軍団と兵士	平31. 1.24～3.31	福島県教育委員会	
国指定重要文化財公開	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡縄文土器	平30. 5. 1～7. 4	福島県教育委員会	
		平30. 7. 5～9. 2		
		平30. 9. 4～12. 2		
		平30.12. 4～平31. 2.28		
		平31. 3. 1～3.31		
エントランス特別展示	新春「亥」特別展示	平31. 1. 5～2. 3	福島県教育委員会	

2) みんなの研究ひろば

「みんなの研究ひろば」は、歴史や文化財等に関する研究を紹介するほか、平成30年度は県立新地高校・県立福島高校の生徒が行った文化財研究を紹介した。また、ボランティアや「森の塾」の活動成果も展示した。

平成30年度は、計6回の展示を行った。

◆まほろんボランティア平成29年度の活動
(平成29年度からの継続)

白河館ボランティアの平成29年度の活動と、ボランティアの手による修繕図書・竹カゴなどを紹介した。

◆古代会津と墨書土器・木製品

会津若松市鶴沼B・C遺跡から出土した墨書土器を紹介した。また、会津若松市鶴沼B・C遺跡、西木流C・D遺跡から出土した木製品を展示し、併せて木製品の収蔵・保管の方法について紹介した。

◆新地高校「大津波伝承の研究」

2017年度全国高校生歴史フォーラムにて優秀賞・(奈良大学)学長賞を受賞した県立新地高校「大津波伝承の研究」について、その内容を展示するとともに、震災の教訓を語り継ぐ活動「おもひの木プロジェクト」を紹介した。

◆福島高校「鐵・刀・日本の文化の研究」

スーパーサイエンス指定校として県立福島高校が行った古代の製鉄技術の研究を紹介した。実際に高校生が行った製鉄実験の様子の写真や生成物などを展示した。

◆「まほろん森の塾生」の活動

塾生が平成30年度に取り組んだ稲作や製塩に関する研究成果を発表する展示内容とした。また、実験に用いた自作の土器や石器なども展示した。

◆まほろんボランティア平成30年度の活動

指定文化財展「白河市天王山遺跡の時代」に関連して、ボランティアが復元製作した弥生土器などを展示するとともに、平成30年度のボランティア活動を紹介した。

3) 話題の遺跡

県内の文化財情報を収集し、話題性のある資料を速報的に展示するコーナーである。企画展や他の展示コーナーに関連する資料を紹介し、展示室全体が有機的に関連するよう努めている。

また、現地説明会のPR展示をはじめ、『研究紀要』に掲載した資料、企画展に関連した資料など、5回の展示を行った。

◆トロミ遺跡(平成29年度からの継続)

二本松市トロミ遺跡を取り上げ、古代と中世の出土品を展示した。

◆縄文珍品展

県内の縄文時代遺跡から出土した石棒を展示した。また、楡葉町馬場前遺跡や郡山市荒小路遺跡の石棒出土状況を写真パネルで紹介した。

◆弥生土器の年代

「しらかわ歴史名場面」コーナーと同様、指定文化財展「白河市天王山遺跡の時代」に関連する年代測定資料を展示した。

◆東日本大震災復興関連遺跡の調査①

東日本大震災復興関連事業関連発掘調査で出土した遺物を展示した。

◆鬼穴古墳

矢吹町鬼穴1号墳から出土した家形埴輪片(矢吹町教育委員会所蔵)などを展示するとともに、同町で実施した範囲確認調査の成果を速報した。



「鬼穴古墳」

4) しらかわ歴史名場面

「しらかわ歴史名場面」は、地元自治体と連携した展示も行いながら、白河地域の文化財について理解を深める展示を目的としている。

平成30年度は、計4回の展示を行った。

◆泉川遺跡の縄文土器(平成29年度からの継続)

白河市泉川遺跡出土の縄文土器や黒曜石等を展示し、地域間のつながりを紹介した。

◆白河市一里段A遺跡とその時代

白河館の敷地内に所在する一里段A遺跡出土の旧石器時代資料を紹介するとともに、福島県内の遺跡から出土した同時代の石器を展示した。

◆弥生土器の年代

指定文化財展「白河市天王山遺跡の時代」に関連したコーナー展示。付着炭化物の放射性炭素年代測定を行った弥生土器について、暦年代値を明示して展示した。



「弥生土器の年代」

◆白河軍団と兵士

古代の白河郡に置かれたとされる「白河軍団」の兵士の再現人形を紹介するとともに、その装備品（レプリカ）を展示した。

5) 国指定重要文化財の公開

磐梯町・猪苗代町に所在する法正尻遺跡から出土した遺物のうち、国指定重要文化財の縄文土器を選び、2か月ごとに計5回の展示を行った。

6) エントランス特別展示

平成31年新春を迎えるにあたり、干支「亥」にちなんだ展示を行った。猪の頭部に似た縄文土器の突起片などを展示した。

(3) 展示資料のメンテナンス等

◆野外展示

常設・野外展示資料及び施設の状態について、定期的に点検を実施し、軽微な修繕については、展示担当の学芸員が行った。

また、専門業者に依頼し、腐食した縄文時代の家の入り口の柱と扉を交換したほか、同箇所土間を補修した。

2. 企画展示

(1) 収蔵資料展1

「J O M O N ワンダーランド」

会期：平成30年4月21日（土）～6月17日（日）
（開催日数51日）

観覧者数：6,472名

1) 趣旨と方法

小学校6年生の社会科の歴史学習に関連付けた内容で、学び始めた日本の歴史に児童が興味を抱けるような展示とした。

展示品は、縄文時代の特徴的な資料や教科書に関連した資料を中心に紹介した。縄文土器や石器の他に、土偶や丸木舟なども展示した。

展示資料を通して、縄文時代の時代背景や道具の役割、当時の生活までイメージできるように、子どもにも分かりやすい解説文や平易なキャプションを心掛けた。

また、近年の縄文時代研究での新たな知見を紹介することで、最新の歴史研究の状況も感じてもらえるように工夫した。



「J O M O N ワンダーランド」

2) 展示の構成と内容

5つのコーナーで展示を構成した。

①なぜ、このかたちともようなの？

縄文土器の形の変化と炉や煮炊きする中身の変化の関連性、さらには文様の変化で推定できる年代の変化を示した。

②縄文人は石マニア？

縄文人は、石材を選択して道具を使い分けていたことを紹介した。また、使用されている石材の産地と分布から分かる地域間交流についてもパネルで解説した。

「JOMONワンダーランド」展示資料一覧

所在地	遺跡名	資料名	点数	所在地	遺跡名	資料名	点数
1 「なぜ、このかたちともうなの？」							
磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	縄文土器 国指定重要文化財	3	天栄村	桑名邸遺跡	縄文土器	1
浪江町	田子平遺跡	縄文土器	2	小野町	西田H遺跡	縄文土器	1
小野町	西田H遺跡	縄文土器	2	会津美里町	鹿島遺跡	縄文土器	1
相馬市	萩平遺跡	縄文土器	1	飯館村	日向南遺跡	縄文土器	1
会津美里町	下谷ヶ地平C遺跡	縄文土器	1	本宮市	高木遺跡	縄文土器	1
いわき市	タタラ山遺跡	縄文土器	1	下郷町	南倉沢遺跡	縄文土器	1
郡山市	中ノ沢A遺跡	縄文土器	1	浪江町	田子平遺跡	縄文土器	1
三春町	越田和遺跡	縄文土器	1	石川町	七郎内C遺跡	ミニチュア土器	8
楡葉町	馬場前遺跡	縄文土器	4				
2 「縄文人は石マニア？」							
矢吹町	白山A遺跡	狩りの道具①（石鏃）	1	飯館村	羽白C遺跡	食の道具③（多孔石）	1
福島市	獅子内遺跡	狩りの道具②（石鏃）	1	矢吹町	田町遺跡	土木の道具①③（磨製石斧）	2
飯館村	上ノ台A遺跡	狩りの道具③（石鏃）	1	楡葉町	馬場前遺跡	土木の道具②（磨製石斧）	1
小野町	西田H遺跡	狩りの道具④（石槍）	1	三春町	蛇石前遺跡	土木の道具④⑤（磨製石斧）	2
会津美里町	鹿島遺跡	狩りの道具⑤（石槍）	1	大槻町	上平A遺跡	土木の道具⑥（磨製石斧）	1
南相馬市	羽山B遺跡	狩りの道具⑥（石槍）	1	富岡町	前山A遺跡	土木の道具⑦（磨製石斧）	1
福島市	獅子内遺跡	狩りの道具⑦（石鏃）	1	南相馬市	赤柴遺跡	土木の道具①（打製石斧）	1
相馬市	猪倉B遺跡	狩りの道具⑧（石鏃）	1	飯館村	岩下A遺跡	土木の道具②（打製石斧）	1
小野町	西田H遺跡	狩りの道具⑨（石鏃）	1	飯館村	稲荷塚B遺跡	土木の道具③（打製石斧）	1
楡葉町	馬場前遺跡	狩りの道具⑩（石鏃）	1	浪江町	中平遺跡	土木の道具④（磨製石斧）	1
小野町	西田H遺跡	アスファルトが付いた石の矢じり①（石鏃）	1	磐梯町	角間遺跡	祈りの道具（石棒）	1
飯館村	羽白C遺跡	アスファルトが付いた石の矢じり②（石鏃）	1	浪江町	田子平遺跡	祈りの道具①（石棒）	1
相馬市	山田B遺跡	アスファルトが付いた石の矢じり③（石鏃）	1	浪江町	田子平遺跡	祈りの道具②（石棒）	1
磐梯町	角間遺跡	土器のなかで固まったアスファルト	1	飯館村	岩下A遺跡	祈りの道具③（石刀）	1
南相馬市	萩原遺跡	黒曜石の石器①（石槍）	1	飯館村	羽白C遺跡	祈りの道具④⑤（石剣）	2
相馬市	山田B遺跡	黒曜石の石器②（石鏃）	1	石川町	七郎内C遺跡	装身具①（ヒスイ大珠）	1
広野町	上田郷VI遺跡	黒曜石の石器③（石鏃）	1	磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	装身具②（ヒスイ大珠） 国指定重要文化財	1
石川町	七郎内C遺跡	黒曜石の石器④⑤（石鏃）	2	天栄村	桑名邸遺跡	装身具③（ヒスイ大珠）	1
天栄村	桑名邸遺跡	黒曜石の石器⑥（石棒）	1	飯館村	松ヶ平A遺跡	装身具④（耳飾）	1
会津美里町	鹿島遺跡	黒曜石の石器⑦（剃片）	1	南相馬市	小池田遺跡	装身具⑤（耳飾）	1
相馬市	大森A遺跡	食の道具①（石匙）	1	福島市	小屋館遺跡	装身具⑥（耳飾）	1
磐梯町	角間遺跡	食の道具②（石匙）	1	飯館村	羽白C遺跡	装身具⑦⑧（耳飾）	2
南相馬市	萩原遺跡	食の道具③⑤（石匙）	2	飯館村	羽白D遺跡	装身具⑨（垂飾）	1
相馬市	山田B遺跡	食の道具④（石匙）	1	飯館村	羽白C遺跡	装身具⑩（垂飾）	1
福島市	弓手原A遺跡	食の道具⑥（石匙）	1	南相馬市	赤柴遺跡	装身具⑪（垂飾）	1
小野町	西田H遺跡	食の道具⑦（石匙）	1	富岡町	本町西A遺跡	装身具⑫（勾玉）	1
相馬市	萩平遺跡	食の道具⑧（石匙）	1	浪江町	田子平遺跡	装身具⑬（勾玉）	2
福島市	獅子内遺跡	食の道具①（石皿）	1	新地町	双子遺跡	丸木舟	1
福島市	獅子内遺跡	食の道具②（磨石）	1				
3 「ドグウはどれ？」							
おっぱいとボッコリおなか				これもドグウ？～土ぼん～			
飯館村	日向南遺跡	土偶①	1	会津坂下町	鬼渡A遺跡	土版①	1
三春町	柴原A遺跡	土偶②	1	飯館村	日向南遺跡	土版④	1
石川町	七郎内C遺跡	土偶③④	2	小野町	沢目山B遺跡	土版②	1
飯館村	羽白C遺跡	土偶⑤	1	浪江町	田子平遺跡	土版⑤	1
須賀川市	一斗内遺跡	土偶⑥	1	須賀川市	一斗内遺跡	土版③	1
磐梯町	角間遺跡	土偶⑦	1	オシャレヘアーをしたドグウ			
須賀川市	又兵衛田A遺跡	土偶⑧	1	須賀川市	一斗内遺跡	土偶①～④	4
いろいろなかおのドグウ～こい顔族～				飯館村	羽白C遺跡	土偶⑤	1
三春町	柴原A遺跡	縄文土器④	1	浪江町	田子平遺跡	土笛	1
本宮市	高木遺跡	土偶①	1	ぼうしをかぶっているドグウ？			
三春町	柴原A遺跡	土偶②③	3	磐梯町	角間遺跡	土偶①	1
天栄村	桑名邸遺跡	土偶⑥	1	飯館村	羽白C遺跡	土偶②	1
石川町	小田口D遺跡	土偶⑦	1	須賀川市	浜井場B遺跡	土偶③	1
いろいろなかおのドグウ～ぶちやうく族～				イヤリングをしたドグウ			
南相馬市	宮前遺跡	縄文土器	2	磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	土偶① 国指定重要文化財	1
いろいろなかおのドグウ～平たい顔族～				浪江町	田子平遺跡	土製耳飾り②	1
飯館村	日向南遺跡	土器把手①	1	飯館村	日向南遺跡	土製耳飾り③	1
飯館村	羽白C遺跡	土偶②～⑤	4	かおに線がかかれたドグウ			
いろいろなかおのドグウ～ビックリ顔族～				広野町	上田郷VI遺跡	土偶①	1
磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	土器把手⑤ 国指定重要文化財	1	郡山市	荒小路遺跡	土偶②	1
天栄村	桑名邸遺跡	土偶①～④	4	石川町	七郎内C遺跡	土偶③	1
新地町	師山遺跡	土偶⑥	1	オシャレなドグウ			
郡山市	荒小路遺跡	土偶⑦	1	飯館村	羽白C遺跡	土偶①②	2
おもしろドグウ大集合！				須賀川市	松ヶ平C遺跡	土偶③	1
天栄村	桑名邸遺跡	土偶①	1	磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	土偶④ 国指定重要文化財	1
浪江町	田子平遺跡	土偶②③	2	飯館村	日向南遺跡	土偶⑤	1
飯館村	上ノ台A遺跡	土偶④	1	磐梯町	角間遺跡	土偶⑥	1
飯館村	羽白C遺跡	土偶⑤	1	バックがオシャレなドグウ			
福島市	弓手原遺跡	土偶⑥	1	本宮市	高木遺跡	土偶①	1
三春町	越田和遺跡	土偶⑦	1	須賀川市	売田A遺跡	土偶②	1
本宮市	高木遺跡	土偶⑧⑨⑩⑫	4	三春町	柴原A遺跡	土偶③～⑤	3
小野町	西田H遺跡	土偶⑩	1	石川町	小田口D遺跡	土偶⑥	1
飯館村	日向南遺跡	土偶⑬	1	磐梯町	角間遺跡	土偶⑦	1
オールスター				飯館村	羽白C遺跡	土偶⑧	1
郡山市	荒小路遺跡	土偶	1	須賀川市	一斗内遺跡	土偶⑨	1
三春町	柴原A遺跡	土偶	1				
本宮市	高木遺跡	土偶	3				
広野町	上田郷VI遺跡	土偶	1				
石川町	七郎内C遺跡	土偶	1				
南相馬市	萩原遺跡	土偶	1				
4 「じょうもん動物園」							
いろんなどうぶつ大集合！				粘土でつくったキノコの山			
本宮市	高木遺跡	縄文土器	1	飯館村	羽白C遺跡	土製品	5
磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	縄文土器 国指定重要文化財	1	南相馬市	小池田遺跡	土製品	1
三春町	仲平遺跡	縄文土器	1	須賀川市	一斗内遺跡	土製品	2
天栄村	桑名邸遺跡	縄文土器	1	須賀川市	浜井場B遺跡	土製品	1
磐梯町	角間遺跡	土製品①	1	須賀川市	又兵衛田A遺跡	土製品	1
郡山市	荒小路遺跡	土製品②～⑤	4	土器についてどうぶつのかお			
本宮市	高木遺跡	縄文土器	3	下郷町	南倉沢遺跡	縄文土器	3
郡山市	北向遺跡	縄文土器	1	富岡町	本町西A遺跡	縄文土器	2
福島市	獅子内遺跡	異形石器	2	富岡町	上本町G遺跡	縄文土器	1
西会津町	塩喰岩陰遺跡	異形石器	1				
三角形の道具はおまもり？それともどうぶつ？							
磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	三脚石器 国指定重要文化財	5				
磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	三角状土製品 国指定重要文化財	1				
5 「歴史はかわる？」							
パネル展示							

③ドグウはだあれ？

土偶の観察ポイントを紹介し、展示した土偶から当時の髪型・アクセサリーや服などを想像させる展示とした。

④じょうもん動物園

動物意匠の土器や土製品を展示して、縄文人の感性を感じ取れる展示とした。

⑤歴史はかわる？

研究の進捗や科学技術の発展により、教科書の記述が書き換えられることもあり、それが歴史の面白味でもあることを感じてもらう展示とした。

3) 成果

4～6月は、歴史学習を目的とした小学生の団体来館が多い時期であり、多くの児童が見学を楽しんだ。展示内容のみならず、カラフルな展示パネルなども好評であった。

展示のターゲットを児童に設定していたが、大人の来館者にも、「分かりやすい展示で楽しめた」「知識のブラッシュアップになった」など、当初の予想以上に好評であった。

(2) 収蔵資料展2

「縄文土器の逸品」

会期：平成30年7月7日（土）～9月2日（日）
（開催日数55日）

観覧者数：5,498名

1) 趣旨と方法

本館に収蔵された多くの縄文土器の中でも、特に際立つ優品を展示し、時期によって変化する縄文土器の巧みさ・力強さ・美しさなどを、見学者が感じ取れる構成とした。

展示資料は、縄文土器のみとし、土器が林立するような雰囲気を目指した。また、いくつかの展示資料には、その資料が出土した経緯や、その土器の特徴、調査者の思いなどを織り込んだ紹介パネルを配し、展示資料に親しみを感じられるように工夫した。

解説文やキャプションは、来館者が自由に想像を膨らませながら見学できるよう、詳細な説明を極力省いた。

また、美術館のような展示手法を採用し、ライティングに工夫を凝らして土器の優品を鑑賞できるようにした。



「縄文土器の逸品」

2) 展示の構成と内容

本展示には、3つのコーナーを設けた。

①土器のデザイン力

道具としての利便性と機能美を満たしている縄文時代早期から中期の土器を展示した。国指定重要文化財の法正尻遺跡出土土器群もこのコーナーに展示した。また、時期ごとに展示することで、土器の変遷を追えるようにした。

②ふくしまのイッピンを感じる

白河館収蔵の縄文土器の中で量的に最も充実している中期末～後期前葉の土器を多数展示した。いずれも大型の深鉢形土器が多いことから、そのスケール、迫力を来館者に感じていただけるよう、露出展示とした。

③縄文人のエスプリ

洗練された縄文時代後期と晩期の土器を中心に展示した。あわせて、煮沸以外の用途として利用されたと思われるさまざまな器種を紹介した。

また、県外の特徴をもった土器を展示し、縄文時代の地域間交流について考える展示とした。

3) 成果と反省

会期は、ちょうど夏休み期間中と重なったために県外からの来館者も多く見られた。また、東京国立博物館で開催されていた特別展「縄文—1万年の美の鼓動—」を見学してから、本企画展を訪れた来館者も多かった。

来館者からは、図録の刊行を希望する声が多く寄せられた。

「縄文土器の逸品」展示資料一覧

1. 「土器のデザイン力」										
所在地	遺跡名	資料名	点数	備考	所在地	遺跡名	資料名	点数	備考	
石川町	達中久保遺跡	深鉢土器片	4		天栄村	深沢A遺跡	鉢形土器	1		国指定重要文化財
会津坂下町	大村新田遺跡	尖底深鉢土器片	20		会津美里町	鹿島遺跡	鉢形土器	1		
西会津町	塩喰岩陰遺跡	尖底深鉢土器片	3		新地町	双子遺跡	鉢形土器	1		
会津美里町	北平遺跡	尖底深鉢	1		須賀川市	関林A遺跡	小型深鉢	1		
浪江町	田子平遺跡	尖底深鉢	1		南相馬市	原B遺跡	深鉢	1		
小野町	鴨ヶ館遺跡	深鉢	1		磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	鉢形土器	1		
白河市	泉川遺跡	深鉢	1		磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	深鉢	1		
小野町	鴨ヶ館遺跡	尖底深鉢	1		磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	深鉢	1		
小野町	西田H遺跡	尖底深鉢	1		磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	深鉢	1		
広野町	上田郷Ⅵ遺跡	深鉢	1		磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	深鉢	1		
福島市	獅子内遺跡	深鉢	1		磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	深鉢	1		
西会津町	塩喰岩陰遺跡	片口付深鉢	1		磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	深鉢	1		
相馬市	段ノ原B遺跡	深鉢	1		磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	深鉢	1		
大熊町	上平A遺跡	深鉢	1		磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	浅鉢	1		
会津美里町	鷺沢遺跡	深鉢	1		磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	深鉢	1		
西会津町	塩喰岩陰遺跡	浅鉢	1		磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	深鉢	1		
下郷町	南倉沢遺跡	深鉢	1		磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	深鉢	1		
下郷町	南倉沢遺跡	深鉢	1		福島市	弓手原A遺跡	異形深鉢	1		
会津美里町	下谷ヶ地平C遺跡	深鉢	1							
2. 「ふくしまのイッピンを感じる」										
所在地	遺跡名	資料名	点数	備考	所在地	遺跡名	資料名	点数	備考	
国見町	川原遺跡	大型深鉢	1		本宮市	高木遺跡	大型深鉢	1		
飯館村	宮内A遺跡	深鉢	1		飯館村	上ノ台A遺跡	把手付壺形土器	1		
玉川村	堂平B遺跡	壺形土器	1		本宮市	高木遺跡	注口浅鉢	1		
須賀川市	王子前遺跡	小型深鉢	1		本宮市	高木遺跡	把手付注口土器	1		
本宮市	高木遺跡	大型深鉢	1		榎葉町	馬場前遺跡	把手付注口土器	1		
本宮市	高木遺跡	大型深鉢	1		榎葉町	馬場前遺跡	把手付香炉形土器	1		
飯館村	上ノ台A遺跡	大型深鉢	1		郡山市	北向遺跡	把手付注口土器	1		
天栄村	桑名邸遺跡	大型深鉢	1		本宮市	高木遺跡	双口注口浅鉢	1		
天栄村	桑名邸遺跡	大型深鉢	1		磐梯町	角間遺跡	赤彩注口部片	1		
本宮市	高木遺跡	大型浅鉢	1		須賀川市	一斗内遺跡	注口土器	1		
本宮市	高木遺跡	大型深鉢	1		飯館村	宮内A遺跡	赤彩壺形注口土器	1		
二本松市	塩沢上原A遺跡	大型深鉢	1		福島市	弓手原A遺跡	壺形注口土器	1		
本宮市	高木遺跡	大型深鉢	1		国見町	川原遺跡	注口土器	1		
三春町	越田和遺跡	大型深鉢	1		国見町	川原遺跡	赤彩注口土器	1		
三春町	越田和遺跡	大型深鉢	1		柴原A遺跡	注口土器	1			
三春町	越田和遺跡	大型深鉢	1		飯館村	上ノ台A遺跡	注口浅鉢	1		
三春町	越田和遺跡	大型深鉢	1		国見町	川原遺跡	大型注口土器	1		
本宮市	高木遺跡	大型深鉢	1		浪江町	中平遺跡	壺形土器	1		
三春町	柴原A遺跡	大型深鉢	1		浪江町	田子平遺跡	深鉢	1		
三春町	越田和遺跡	大型深鉢	1		浪江町	田子平遺跡	深鉢	1		
本宮市	高木遺跡	大型深鉢	1		浪江町	田子平遺跡	深鉢	1		
二本松市	塩沢上原A遺跡	大型深鉢	1		浪江町	田子平遺跡	深鉢	1		
榎葉町	馬場前遺跡	大型深鉢	1		浪江町	田子平遺跡	深鉢	1		
3. 「縄文人のエスプリ」										
所在地	遺跡名	資料名	点数	備考	所在地	遺跡名	資料名	点数	備考	
浪江町	田子平遺跡	深鉢	1		本宮市	高木遺跡	小型深鉢	1		
小野町	沢目木B遺跡	深鉢	1		飯館村	松ヶ平D遺跡	香炉形土器	1		
飯館村	羽白C遺跡	壺形土器	1		飯館村	日向南遺跡	香炉形土器	1		
玉川村	鬼淵遺跡	大型浅鉢	1		本宮市	高木遺跡	蓋と小型深鉢	2		
小野町	沢目木B遺跡	大型浅鉢	1		三春町	春田遺跡	小型浅鉢	1		
小野町	沢目木B遺跡	深鉢	1		福島市	弓手原A遺跡	小型有孔罎付土器	1		
会津坂下町	鬼渡A遺跡	鉢形土器	1		南相馬市	赤柴遺跡	濾過器付土器	1		
福島市	獅子内遺跡	注口土器	1		郡山市	北向遺跡	小型台付深鉢形土器	1		
飯館村	羽白C遺跡	短頸注口土器	1		三春町	仲平遺跡	小型台付土器	1		
飯館村	羽白C遺跡	赤彩短頸壺形土器	1		本宮市	高木遺跡	小型台付浅鉢形土器	1		
飯館村	羽白C遺跡	注口土器	1		天栄村	前原A遺跡	小型尖底深鉢	1		
須賀川市	浜井場B遺跡	注口土器	1		石川町	小田口D遺跡	把手付二足土器	1		
飯館村	羽白C遺跡	蓋	1		郡山市	北向遺跡	小型袋状土器	1		
会津美里町	下谷ヶ地平C遺跡	赤彩深鉢	1		本宮市	高木遺跡	大型深鉢	1		
会津美里町	下谷ヶ地平C遺跡	赤彩黒彩浅鉢	1		榎葉町	馬場前遺跡	大型深鉢	1		
飯館村	日向南遺跡	浅鉢	1		榎葉町	馬場前遺跡	深鉢	1		
飯館村	稲荷塚B遺跡	浅鉢	1		富岡町	前山A遺跡	深鉢	1		
小野町	沢目木B遺跡	鉢形土器	1		会津美里町	中江聖の宮遺跡	小型深鉢	1		
飯館村	羽白C遺跡	浅鉢	1		大熊町	上平A遺跡	筒形土器	1		
会津坂下町	鬼渡A遺跡	浅鉢	1		本宮市	高木遺跡	浅鉢	1		
須賀川市	一斗内遺跡	浅鉢	1		本宮市	高木遺跡	壺形土器	1		
飯館村	羽白C遺跡	浅鉢	1		郡山市	田向A遺跡	浅鉢土器片	14		
福島市	八景腰巻遺跡	皿形土器	1		富岡町	本町西A遺跡	浅鉢土器片	1		
天栄村	桑名邸遺跡	有孔罎付土器	1		石川町	五反分D遺跡	深鉢土器片	2		
本宮市	高木遺跡	器台形土器	1							
飯館村	上ノ台A遺跡	袋形土器	1							
合計 172 点										

国指定重要文化財

(3) 指定文化財展

「白河市天王山遺跡の時代」

会期:平成30年9月29日(土)～11月25日(日)

(開催日数50日間)

観覧者数:4,455名

「白河市天王山遺跡の時代」 展示資料一覧

遺跡名	資料名	点数	所蔵
—	天王山遺跡出土土器実測図	3	個 人 蔵
—	天王山遺跡測量図	1	個 人 蔵
—	天王山遺跡調査報告	4	個 人 蔵
天王山遺跡	弥生土器破片	48	白河市歴史民俗資料館
天王山遺跡	弥生土器粗文壺	13	白河市歴史民俗資料館
天王山遺跡	弥生土器有文壺	21	白河市歴史民俗資料館
天王山遺跡	弥生土器粗文甕	3	白河市歴史民俗資料館
天王山遺跡	弥生土器有文甕	15	白河市歴史民俗資料館
天王山遺跡	弥生土器注口付壺	2	白河市歴史民俗資料館
天王山遺跡	弥生土器粗文深鉢	1	白河市歴史民俗資料館
天王山遺跡	弥生土器粗文鉢	1	白河市歴史民俗資料館
天王山遺跡	弥生土器有文台付鉢	1	白河市歴史民俗資料館
天王山遺跡	弥生土器粗文口付高杯	1	白河市歴史民俗資料館
天王山遺跡	弥生土器有文高杯	6	白河市歴史民俗資料館
塩喰岩陰遺跡	弥生土器破片	5	福島県教育委員会
一ノ堰B遺跡	弥生土器有文壺	2	福島県教育委員会
柴迫A遺跡	弥生土器粗文甕	1	福島県教育委員会
美シ森B遺跡	弥生土器有文壺	1	福島県教育委員会
屋敷遺跡	弥生土器有文壺	1	福島県教育委員会
伊勢林前遺跡	弥生土器有文壺	2	いわき市教育委員会
植田郷B遺跡	弥生土器有文甕	1	いわき市教育委員会
君ヶ沢B遺跡	弥生土器有文甕	1	福島県教育委員会
船沢A遺跡	弥生土器有文甕	1	福島県教育委員会
師山遺跡	弥生土器破片	8	福島県教育委員会
師山遺跡	弥生土器粗文甕	1	福島県教育委員会
師山遺跡	弥生土器有文甕	1	福島県教育委員会
師山遺跡	弥生土器粗文浅鉢	1	福島県教育委員会
双子遺跡	弥生土器破片	10	福島県教育委員会
綱取貝塚	弥生土器有文壺	2	いわき市教育委員会
綱取貝塚	弥生土器粗文深鉢	1	いわき市教育委員会
輪山遺跡	弥生土器破片	3	いわき市教育委員会
愛谷遺跡	弥生土器有文壺	1	いわき市教育委員会
八幡台遺跡	弥生土器粗文壺	3	いわき市教育委員会
夕日長者遺跡	弥生土器有文壺	1	いわき市教育委員会
朝日長者遺跡	弥生土器有文口付高杯	1	いわき市教育委員会
上野遺跡	弥生土器粗文壺	1	いわき市教育委員会
明戸遺跡	弥生土器破片	53	福島県立博物館
赤沢A遺跡	弥生土器有文甕	1	福島県教育委員会
弥六内遺跡	弥生土器破片	12	須賀川市教育委員会
弥六内遺跡	弥生土器粗文壺	2	須賀川市立博物館
弥六内遺跡	弥生土器粗文甕	1	須賀川市立博物館
弥六内遺跡	弥生土器有文壺	2	須賀川市立博物館
諸田遺跡	弥生土器粗文壺	2	大玉村教育委員会
破橋遺跡	弥生土器粗文壺	1	大玉村教育委員会
館前遺跡	弥生土器有文壺	2	伊達市教育委員会
和泉遺跡	弥生土器有文壺	2	福島県教育委員会
和泉遺跡	弥生土器有文注口付壺	1	福島県教育委員会
和泉遺跡	弥生土器粗文甕	1	福島県教育委員会
和泉遺跡	弥生土器有文甕	8	福島県教育委員会
和泉遺跡	弥生土器無文甕	1	福島県教育委員会
和泉遺跡	弥生土器粗文鉢	1	福島県教育委員会
能登遺跡	弥生土器有文甕	5	福島県教育委員会
能登遺跡	弥生土器有文壺	2	福島県教育委員会
能登遺跡	弥生土器有文注口付土器	1	福島県教育委員会
能登遺跡	弥生土器蓋	1	福島県教育委員会
開津台畑遺跡	弥生土器有文壺	1	会津坂下町教育委員会
開津台畑遺跡	弥生土器有文甕	1	会津坂下町教育委員会
館ノ内遺跡	弥生土器破片	4	会津坂下町教育委員会
館ノ内遺跡	弥生土器有文壺	1	会津坂下町教育委員会
館ノ内遺跡	弥生土器有文高杯	1	会津坂下町教育委員会
細田遺跡	弥生土器破片	1	会津坂下町教育委員会

1) 趣旨

福島県における弥生時代研究の転機となった白河市天王山遺跡の発掘調査の紹介と、東北地方の弥生時代後期に特徴的な天王山式土器の基準資料である県指定重要文化財天王山遺跡出土

遺跡名・時代	資料名	点数	所蔵
屋敷遺跡	弥生土器破片	2	福島県教育委員会
屋敷遺跡	弥生土器粗文甕	1	福島県教育委員会
屋敷遺跡	弥生土器有文高杯	1	福島県教育委員会
屋敷遺跡	弥生土器有文注口付土器	1	福島県教育委員会
桜町遺跡	弥生土器粗文甕	1	福島県教育委員会
桜町遺跡	弥生土器有文甕	3	福島県教育委員会
桜町遺跡	弥生土器有文高杯	4	福島県教育委員会
桜町遺跡	弥生土器有文高杯	1	福島県教育委員会
桜町遺跡	井戸枠	1	福島県教育委員会
桜町遺跡	梯子	1	福島県教育委員会
桜町遺跡	掘り棒	1	福島県教育委員会
桜町遺跡	狭い鍬	1	福島県教育委員会
天王山遺跡	焼土塊	1	白河市歴史民俗資料館
天王山遺跡	炭化米	2	白河市歴史民俗資料館
天王山遺跡	炭化クリ	1	白河市歴史民俗資料館
天王山遺跡	炭化クルミ	1	白河市歴史民俗資料館
天王山遺跡	管玉	2	白河市歴史民俗資料館
台ノ前B遺跡	刃器形土製品	1	福島県教育委員会
能登遺跡	匙形土製品	2	福島県教育委員会
能登遺跡	独鈷石	1	福島県教育委員会
能登遺跡	独鈷石形土製品	1	福島県教育委員会
諸田遺跡	炭化米	1	大玉村教育委員会
天王山遺跡	石鏝	5	白河市歴史民俗資料館
天王山遺跡	石器素材剥片	9	白河市歴史民俗資料館
天王山遺跡	環状石斧	1	白河市歴史民俗資料館
天王山遺跡	磨石	1	白河市歴史民俗資料館
能登遺跡	石鏝	4	福島県教育委員会
能登遺跡	石器素材剥片	5	福島県教育委員会
能登遺跡	打製石斧	2	福島県教育委員会
能登遺跡	磨石	1	福島県教育委員会
能登遺跡	敲石	1	福島県教育委員会
桜町遺跡	石皿	1	福島県教育委員会
八幡台遺跡	局部磨製石斧	2	いわき市教育委員会
館ノ内遺跡	石核	1	会津坂下町教育委員会
館ノ内遺跡	打製石斧	4	会津坂下町教育委員会
館ノ内遺跡	敲石	1	会津坂下町教育委員会
館ノ内遺跡	土製紡錘車	2	会津坂下町教育委員会
桜町遺跡	土製紡錘車	1	福島県教育委員会
大玉村内	土製紡錘車	1	大玉村教育委員会
天王山遺跡	土製紡錘車	2	白河市歴史民俗資料館
明戸遺跡	土製紡錘車	2	福島県立博物館
八幡台遺跡	土製紡錘車	2	いわき市教育委員会
朝日長者遺跡	土製紡錘車	5	いわき市教育委員会
夕日長者遺跡	土製紡錘車	4	いわき市教育委員会
山ノ神B遺跡	土製紡錘車	1	福島県教育委員会
天王山遺跡	布目圧痕付土器	1	白河市歴史民俗資料館
能登遺跡	布目圧痕付土器	1	福島県教育委員会
天王山遺跡	アメリカ式石鏝	40	白河市歴史民俗資料館
天王山遺跡	石鏝	4	白河市歴史民俗資料館
明戸遺跡	アメリカ式石鏝	1	福島県立博物館
塩喰岩陰遺跡	アメリカ式石鏝	9	福島県教育委員会
能登遺跡	アメリカ式石鏝	4	福島県教育委員会
桜町遺跡	アメリカ式石鏝	3	福島県教育委員会
桜町遺跡	無文壺	2	福島県教育委員会
桜町遺跡	無文高杯	1	福島県教育委員会
—	M号地遺物出土状況模型	1	福島県文化財センター白河館
—	復元機	1	福島県文化財センター白河館
—	復元枠	1	福島県文化財センター白河館
—	復元土製紡錘車	1	福島県文化財センター白河館
—	枠糸	1	福島県文化財センター白河館
—	平織の布	1	福島県文化財センター白河館

品を広く公開する目的で企画した。

また、文様の系統や編年的位置などで、弥生時代の研究者を感かせてきた天王山式土器の特徴と広がり、天王山遺跡出土品や白河館収蔵資料等に基づき解説し、併せて来館者に天王山式土器が作られた時代とその社会について関心をもってもらえるような展示とした。

2) 展示の構成と内容

①「天王山遺跡の発見と発掘調査」

昭和25年の天王山遺跡発見と、福島県における発掘調査としては最も古いとされる藤田定市氏による2次にわたる発掘調査について、当時の発掘調査報告書や写真等の記録で紹介した。また、調査時のイメージを感じてもらうために、M号地の遺物出土状況を模型により再現した。

②「天王山遺跡の土器」

天王山遺跡出土の天王山式土器を重文指定、未指定を問わず公開可能な資料を展示した。展示に際しては、土器のセットを推察できるよう、出土地点ごとの陳列とした。

③「県内の弥生時代後期の土器」

県内各所から出土した天王山式土器と「天王山系」と呼ばれる土器を、浜通り地方・中通り地方・会津地方の3地方に分けて展示した。

④「天王山遺跡の時代」

天王山式土器が使われていた弥生時代後期の集落、衣・食・住、墓について、写真・図面・遺物・模造品（今回の展示に合わせて製作した輪状式腰機、カセ、紡錘車）を用いて紹介した。遺物については、アメリカ式石鏃、土製紡錘車、天王山遺跡出土炭化米・クルミ・栗等で展示を構成した。



「白河市天王山遺跡の時代」

⑤「『天王山系』の終焉」

桜町遺跡出土の北陸系土器と古墳の写真を示し、福島県における古墳文化の到来と弥生時代の終焉を解説した。

⑥「天王山遺跡のいま」

天王山遺跡の実態解明を目的に平成28・29年度に行われた発掘調査成果についてパネルで展示し、天王山遺跡の国史跡指定を目指す白河市の取り組みを紹介した。

3) 成果と反省

福島県では注目されることの少ない弥生時代後期を扱った展示であり、全貌が公開されたことのない天王山遺跡出土品の大半を展示したことから、会期中は県内外から多くの考古学研究者・文化財関係者を迎えることができた。

内容が専門家寄りであったため、一般の来館者には、やや難しい内容の展示であった。

（4）ふくしま復興展

「はま・なか・あいづ再生史」

会期：平成30年12月15日（土）～平成31年3月17日（日）（開催日数73日間）

観覧者数：4,350名

1) 趣旨

日本列島は、古くから幾度となく大きな災害に見舞われてきた。人々は、その度ごとに生活再建への努力を続けてきた。この企画展では、過去の災害からの「ふくしま再生」を遺跡と史料から読み取り、歴史に学ぶことの大切さと、文化財を後世に伝える意義を発信した。

会期中、12月15日・16日、2月2日・23日、3月10日にギャラリートークを実施した。また、「まほろん冬まつり」（2月17日）において、展示のストーリーテラーとなった「手長と足長」をもとに作成したオリジナルキャラクター、「てニキ」と「あニキ」を主人公とした紙芝居仕立ての子ども向け解説会を実施した。

2) 展示の構成

①「プロローグ」

福島県で発生した近現代の自然災害を写真で紹介した。

②「津波からの再生 奮闘」

浜通り地方の津波堆積物の解釈や慶長津波被災地における復興施策としての塩田経営を、出

土品などを例に紹介した。

③「水害からの再生 いのり」

中通り地方を流れる阿武隈川に注目し、河畔で生活した人々が同じ土地で生活し続けた事例を、二本松市トロミ遺跡などを例に紹介した。

④「火山災害からの再生 畏怖」

金山町にある沼沢湖（沼沢火山）、磐梯山の噴火災害を例に、火山と共に生き、自然の恵みを受け生きてきた歴史を紹介した。

⑤「エピローグ」

史実を後世に伝えることの大切さなどを伝え、結びとした。

3) 成果と反省

会期中に実施したアンケートでは、「過去の災害を伝える展示は、とても大切」とし、このような展示などを通じた活動の継続を期待する声が寄せられた。展示解説文については、「短くまとめられ、内容が濃い」との感想もあった。

これからも、幅広い年齢層が、地域の文化財や歴史に親しみを感じ、理解し、史実を後世に伝えることの大切さに気付いてもらえるようなプログラムを考えていきたい。

「はま・なか・あいづ再生史」展示資料一覧

所在地	遺跡名	資料名	点数	所蔵	備考
新地町	双子遺跡	丸木舟（縄文時代）	1	福島県教育委員会	
		縄文土器片	2		
飯館村	岩下A遺跡	弥生土器	1		
南相馬市	南入A・長瀬遺跡	弥生土器	1		
新地町	山中遺跡	土師器小型壺（古墳時代）	1		
	山中B遺跡	馬鍬（製塩用具：江戸～明治時代）	1		
	師山遺跡	柄杓（製塩用具：江戸～明治時代）	1		
		天秤棒（製塩用具：江戸～明治時代）	1		
		灰掻（製塩用具：江戸～明治時代）	1		
		木鍬（製塩用具：江戸～明治時代）	1		
	唐崎遺跡	桶の底板とタガ（製塩用具：江戸～明治時代）	5		
大熊町	—	足踏み脱穀機（昭和時代）	1	大熊町教育委員会	
郡山市	町B遺跡	縄文土器片	4	郡山市教育委員会	
二本松市	トロミ遺跡	土師器杯・台付杯（平安時代）	12	福島県教育委員会	
		土師器杯・鉢・甕（古墳時代）	8		
本宮市	高木遺跡	鏡・勾玉形土製品（古墳時代）	3		
会津美里町	鹿島遺跡	縄文土器	6		
		石槍・石鏃（縄文時代）	2		
磐梯町・猪苗代町	法正尻遺跡	縄文土器	26		国指定重要文化財を含む
—	—	1888（明21）年東京朝日新聞附録「磐梯山噴火真図」	1	個人	
		福島県史資料所在目録（第1集）—明治・大正期の福島県庁文書—No.1503 1888（明21）年磐梯山噴火事変取扱二関スル書類	1	福島県歴史資料館	
		福島県史資料所在目録（第1集）—明治・大正期の福島県庁文書—No.1507 1888（明21）年磐梯山噴火罹災者人名簿	1		
		福島県史資料所在目録（第1集）—明治・大正期の福島県庁文書—No.2087 1888（明21）年長瀬川治水計画	1		
		写真「噴火した磐梯山」1888（明21）年NHK福島放送局寄贈文書2	1		
		写真「川上温泉付近」（資料名不詳）1888（明21）年NHK福島放送局寄贈文書3	1		
		写真「破潰された家と人々」1888（明21）年NHK福島放送局寄贈文書6	1		

3. 講演会等

(1) 館長講演会

平成30年度は、「未来への考古学」をテーマに、5回の館長講演会を開催した。第3回においては福島県立新地高等学校おもひの木プロジェクト地理歴史班の高校生による「大津波伝承の研究」の発表と、館長とのディスカッションも実施した。



第3回館長講演会

(2) 文化財講演会等

企画展などに関連付けて、文化財講演会を6回、文化財講座を1回、文化財ビデオ上映会を1回開催した。

1) 文化財講演会

①縄文マジカル・ミステリー

収蔵資料展1「JOMONワンダーランド」の関連講演会で、大熊町教育委員会の森幸彦氏が講演を行った。森氏は、三貫地貝塚（新地町）の調査を講演の題材にした。縄文時代の長さについては、白河館の調査研究による年代測定結果を引用して説明した。日本人のルーツについては、国立遺伝学研究所のDNA分析結果、東京大学人類学教室の形質分類学的分析結果を示して解説した。その他、石鏃が刺さった人骨からは樹上狩猟の可能性、縄文土器の性格を縄文人の死生観に合わせて解釈する視点を示した。講演後に行った菊池館長との対談では、三貫地貝塚のDNA分析の成果が議論された。最後には森氏が勤務する大熊町の厳しい文化財保護の現状が報告された。

・実施日：平成30年4月28日（土）

・参加者：43名

②縄文中期の集落—法正尻遺跡を中心に—

収蔵資料展1「JOMONワンダーランド」の関連講演会で、当財団遺跡調査部の松本茂氏が講演を行った。法正尻遺跡（磐梯町・猪苗代町）の貯蔵穴と、高木遺跡（本宮市）の251号住居跡の複式炉から出土した曽利系土器に焦点を当て、関連遺跡、遺物を踏まえた解説が行われた。

・実施日：平成30年6月16日（土）

・参加者：77名

③縄文後・晩期の社会

収蔵資料展2「縄文土器の逸品」の関連講演会である。講師の明治大学文学部の阿部芳郎氏は、大きく「ムラの研究」「ヒトの研究」「食べ物の研究」と3つのテーマを設けて、講演を行った。「ムラの研究」では、従来、縄文時代中期末葉以降は気候の寒冷化により、遺跡数が激減し、人口も急激に減少したと考えられていたが、最近の研究の進展により動植物（食料）の影響は殆どなかったと考えられるようになったと説明した。土偶・石棒祭祀や製塩等の生業の特殊化が起こり、むしろ成熟した社会であったと再評価した。「ヒトの研究」では、縄文時代は共同生活を前提に、平等な社会であると考えられてきたが、近年の人骨の古食性分析によると階層差があり、土製耳飾り・貝輪・腕輪の増加も地域社会の複雑化を示唆していると述べた。「食べ物の研究」では、縄文時代晩期には製塩土器による塩づくりが確実視されていたが、近年の灰や海草に由来する微化石の発見により、塩づくりの起源が1,000年以上古くなる可能性が高くなったこと等が紹介された。

・実施日：平成30年7月28日（土）

・参加者：41名



文化財講演会「縄文後・晩期の社会」

④卑弥呼の時代のふくしま

指定文化財展「白河市天王山遺跡の時代」の関連講演会である。講師である福島県立博物館の田中敏氏は、2世紀後半～3世紀中頃の日本列島を取り巻く海外情勢、東北地方全体の弥生時代の開始時期、会津地方における土器と墓地の変遷などについて解説した。日本海側最北の高地性集落である山元遺跡（新潟県村上市）と天王山遺跡の遺構・遺物の対比のほか、方形周溝墓の性格や、「桜町式土器」と天王山式土器の関係について言及した。

- ・実施日：平成30年10月13日（土）
- ・参加者：53名

⑤Y A Y O I セミナー

指定文化財展「白河市天王山遺跡の時代」の関連講演会として、「天王山遺跡のいま」と「『弥生時代』をどうみるか」の2本の講演を行った。

「天王山遺跡のいま」は白河市建設部の鈴木功氏を講師に迎えて実施した。昭和25年に行われた藤田定市氏の発掘調査によって出土した多量の弥生土器から、天王山式土器の設定はなされたものの、遺跡の性格が不明なまま、その後長らく調査が行なわれなかったことなどが説明された。そして現在白河市が進めている天王

山遺跡の内容確認調査によって、藤田氏の調査トレンチを確認し、竪穴建物の可能性がある遺構などが検出されたことなど、最新の調査成果が速報された。

「『弥生時代』をどうみるか」は明治大学文学部の石川日出志氏を講師に迎えて実施した。弥生時代に灌漑稲作・金属器の使用が開始され、水田経営における管理・統括を通して社会の階層化が進行し、特に西日本では有力集団が大陸と交渉を重ねていた。稲作農耕社会から初期国家を形成した九州～本州と、稲作を受容しなかった琉球・アイヌ世界とは歴史の道が分岐し、九州～本州内において地域差や時間による変異が大きいと説明した。こうした地域ごとの変異と広域連動による地域間関係の組換えの過程を理解するためには、弥生文化を【〔各地域の縄文時代以来の伝統〕＋〔灌漑稲作の受容〕＋〔地域間連携による社会変容〕】と見る必要があると説いた。続いて、東北の弥生文化について解説し、中期前葉～中葉、後期後半に北陸地方などを介した西日本との連携による大きな変革が認められ、逆に天王山式土器からはその成立に北海道との関係がうかがえるとした。

- ・実施日：平成30年11月10日（土）
- ・参加者：115名

講演会等実施状況

名 称	講 師	実施日	受講者数
第1回 館長講演会「ことばと文字と考古学」	館長 菊池徹夫	平30. 5.19	31名
第2回 館長講演会「北の縄文スピリットー縄文時代の終わりごろに何があったのか？」	館長 菊池徹夫	平30. 7.28	48名
第3回 館長講演会「北からみた縄文と弥生ー企画展「白河市天王山遺跡の時代」に寄せてー」	館長 菊池徹夫	平30. 9.29	43名
第4回 館長講演会「東の日本人、西の日本人ー日本文化の地域差と多様性を考えるー」	館長 菊池徹夫	平30.12.15	21名
第5回 館長講演会「考古ニュースを解説する」	館長 菊池徹夫	平31. 2. 2	24名
文化財講演会「縄文マジカル・ミステリー」	森 幸彦（大熊町教育委員会）	平30. 4.28	43名
文化財講演会「縄文中期の集落ー法正尻遺跡を中心にー」	松本 茂（福島県文化振興財団遺跡調査部）	平30. 6.16	77名
文化財講演会「縄文後・晩期の社会」	阿部芳郎（明治大学文学部）	平30. 7.28	41名
文化財講演会「卑弥呼の時代のふくしま」	田中 敏（福島県立博物館）	平30.10.13	53名
文化財講演会 Y A Y O I セミナー 「天王山遺跡のいま」 「『弥生時代』をどうみるか」	鈴木 功（白河市建設部） 石川日出志（明治大学文学部）	平30.11.10	115名
文化財講演会 Y A Y O I セミナー 「旧・新沼浦の入浜式製塩遺跡」 「慶長奥州津波からの復興ー仙台藩・相馬中村落の塩田開発ー」	飯村 均（福島県文化振興財団事務局） 蝦名裕一（東北大学災害科学国際研究所）	平30.12.16	28名
文化財講座 「縄文後期の土器と文化ー広域な交流と独自性ー」 「縄文晩期の土器ーふくしまの亀ヶ岡式ー」	山岸英夫（福島県文化振興財団遺跡調査部） 山内幹夫（白河館職員）	平30. 9. 1	59名
文化財ビデオ上映会「塩竈神社」「富山県砺波地方の昔の米作り」	大山孝正（白河館職員）	平31. 1.19	11名
合計			594名



YAYOIセミナー『『弥生時代』をどうみるか』

⑥ふくしま復興展「はま・なか・あいづ再生史」関連文化財講座

「旧・新沼浦の入浜式製塩遺跡」と「慶長奥州津波からの復興—仙台藩・相馬中村藩の塩田開発—」の2本の講演を行った。

「旧・新沼浦の入浜式製塩遺跡」は、当財団の飯村均を講師とし、旧・新沼浦での発掘調査成果を基に、瀬戸内海で発展した入浜式塩田を取り入れた近世の仙台藩、相馬中村藩による製塩について解説した。はじめに、製塩の歴史について触れ、縄文時代の土器製塩から古代～近世の入浜式塩田・揚浜式塩田に変遷したことを解説した。続いて仙台藩の事例として、唐崎遺跡（新地町）、双子遺跡（新地町）を取り上げ、土舟型鹹水槽、地場舟型鹹水槽、塩倉跡、塩神社などの遺構や鋳留鉄釜等の製塩関係遺物の説明を行った。相馬中村藩の事例としては、鷲塚遺跡（相馬市）を取り上げ、塩田・沼井・浜溝・大溝等の遺構の配置を明治期の地籍図と対比して説明した。最後に、旧新沼浦の製塩遺跡が、明治43年の製塩地整理法と生産効率の問題により廃止されるに至った経緯を解説した。

「慶長奥州津波からの復興—仙台藩・相馬中村藩の塩田開発—」は、講師に東北大学災害科学国際研究所の蝦名裕一氏を迎えた。東北各地に慶長奥州津波の文書記録が残されていることを示し、スペイン人探検家セバスチャン・ビスカイノの報告書の信憑性が高いこと、福島県浜通り地方に慶長年間のものと思われる大波・洪水のことが、伝説や神社由緒書に残されていること、慶長奥州津波からの復興例として仙台藩における初代川村孫兵衛の塩田開発事業、二代

目川村孫兵衛元吉の海岸植林事業を取り上げて解説した。

・実施日：平成30年12月16日（日）

・参加者：28名

2) 文化財講座

文化財講座は、収蔵資料展2「縄文土器の逸品」の関連企画として開催した。

「縄文後期の土器と文化—広域な交流と独自性—」は当財団遺跡調査部の山岸英夫を講師とした。東北地方北部においては、円筒土器消滅後に各地に地域色の濃い土器群が成立し、独自に変遷する傾向にあることを説明した。一方、東北地方南部では、大木式土器を母体として、地域により差異はあるものの、関東地方など周辺の土器の影響を受けながら在地の土器が変遷する傾向にあることを解説した。北海道・東北地方北部の環状列石、福島県内の配石遺構と敷石住居跡等についても説明した。

「縄文晩期の土器—ふくしまの亀ヶ岡式—」は白河館職員の山内幹夫を講師として、亀ヶ岡式土器の文様帯と基本的文様の変化を説明した。大洞B₁式土器・B₂式土器・BC式土器・C₁式土器・C₂式土器・A式土器・A'式土器の各型式について、文様の新旧等をスライド写真や概念図を駆使して詳述した。

・実施日：平成30年9月1日（土）

・参加者：59名

3) 文化財ビデオ上映会

無形の文化財研修に関連して、同日に記録映像の上映会を開催した。上映作品は、「塩竈神社」（東北放送文化事業団制作）「富山県砺波地方の昔の米作り」（砺波郷土資料館制作）の2本である。上映に際しては白河館職員の大山孝正が解説を加えた。

・実施日：平成31年1月19日（土）

・参加者：11名

4. 体験学習・イベント

(1) 常時体験型メニュー

1) 体験活動室メニュー

個人来館者を対象とした体験メニューで、体験活動室を中心に実施しているものである。平成30年度は、30種類の体験活動室メニューを実施した。このうち、通年で体験が可能なメ

ニューとして、「勾玉づくり」「管玉づくり」「火おこしに挑戦」「まほろんクイズラリー」を実施した。「まほろんクイズラリー」については、3か月ごとに設問を更新している。

通年実施のメニュー以外では、季節の行事や企画展に関連させたテーマを月毎に定め、そのテーマに即した期間限定の体験メニューを26種類実施した。このうち、「J OMONエコバッグづくり」「象嵌アクセサリーづくり」「注口土器ペーパーバイザーづくり」「のけぞり土偶ペーパーバイザーづくり」「ペーパーつむこまづくり」「織物コースターづくり」「まほろん福笑い」は、体験活動室メニューとしては新しいメニューであり、その他のメニューについても、新たな要素を盛り込んで実施した。利用者のニーズに合わせ、月毎に有料メニューと無料メニューを組み合わせで実施した。

体験活動室メニューの実施状況

テーマ	内容	参加人数
縄文エコライフ	J OMONエコバッグづくり	129名
	まほろんオリジナル缶バッジづくり	176名
縄文フォトジェニック	縄文時代風衣装体験	72名
	縄文時代風ペンダントづくり	108名
	腰文づくり	43名
アーティストック縄文原体	組紐でストラップづくり	124名
	拓本コラージュ体験	81名
原始文様をレッツ、カーヴィング	象嵌アクセサリーづくり	166名
	注口土器ペーパーバイザーづくり	74名
	七夕飾りづくり	13名
わくわくサマー体験	団扇づくり	369名
	のけぞり土偶ペーパーバイザーづくり	158名
めざせ!土器マエストロ	ミニ土器づくり	189名
	腰文づくり	103名
弥生クリスタル	ガラス玉づくり	244名
	ペーパーつむこまづくり	272名
掘げて、通して!テキスタイル	織物コースターづくり	108名
	オリジナルヤジロペーパーづくり	189名
年の瀬クラフト	ミニしめ縄づくり	76名
	ミニ門松づくり	162名
	切り絵あそび	66名
作って、遊んで!ニューイヤー	凧づくり	197名
	まほろん福笑い	100名
香れ!時代のコスチューム	時代衣装体験	51名
	香り鶴づくり	93名
	お雛様づくり	82名
春のバーナーワーク	ガラス玉づくり	220名
	ずぼんぼづくり	134名
通年活動室メニュー	勾玉づくり	1,157名
	管玉づくり	21名
	火おこしに挑戦	1,731名
	まほろんクイズラリー	2,156名
	合計	8,864名



「J OMONエコバッグづくり」

2) 特別体験メニュー

イベントや小・中学校の夏休み期間において、特別に実施する体験メニューである。

平成30年度は、表に示した36種類の特別体験メニューを実施した。

特別体験メニューの実施状況

内容	参加人数	内容	参加人数
弓矢体験	839名	アメぞく細工	171名
大珠づくり	176名	ミニ石廬丁ペンダント	82名
勾玉づくり(イベント用)	239名	ぼうすいこま	74名
牙玉づくり	131名	つぼ形ペン立て	94名
ミニ土器づくり(イベント用)	225名	銅剣形ピンバッジ	56名
土偶をつくる	107名	ペーパーつむこま	96名
粘土でつくる縄文のカオ!	133名	ブンブンごま	195名
拓本鯉のぼり	293名	弥生カフェ	356名
お面づくり	270名	家族で楽しむ企画展	130名
魚つり模擬体験	582名	ショコラ・de・パンダイ	161名
シールラリー	1,028名	ミニ革トレーづくり	95名
挑戦!縄文時代の火おこし	663名	ミニ琴づくり	30名
射的	492名	顔料でおえかき	21名
丸木舟づくり	545名	施文原体ペンダント	70名
J OMON糸電話	116名	たがプレスレットづくり	67名
縄文ペーパークラフト	75名	染色切り絵体験	29名
かき氷づくり体験	259名	投壺にチャレンジ	199名
J OMON探偵	167名	おきあがりこぼしづくり	136名
		合計	8,402名



「丸木舟づくり」

3) 団体来館者向け体験メニュー

事前予約の必要な団体来館者向けの体験メニューである。平成30年度は、全17種類の体験メニューを企画したが、「昔の火おこしをみてみよう」「ドキ土器スタンプに挑戦」「組み紐づくり」「拓本に挑戦」は利用実績がなかった。また、高齢者施設や支援施設などの通常の団体メニューを実施することが困難な団体には、体験活動室メニューや特別体験メニュー等を団体用にアレンジして実施した（別表の網掛けの2種類）。

新メニューとしては、時代の異なる出土遺物を観察し、古い順から並べて、その理由を発表し合う「グループ学習」がある。

団体来館者向け体験メニュー

内容	参加人数	内容	参加人数
勾玉づくり	2,893	じょもんファッション	29
火おこしに挑戦	3,273	昔のあそび・昭和のあそび	50
土器や石器を観察しよう	1,006	昔の道具にふれてみよう	740
本格的な土器づくり	65	粘土で勾玉をつくろう	19
ミニチュア土器づくり	37	グループ学習	459
土鈴・土鈴づくり	48	ミニしめ縄づくり	25
土偶ペンダントづくり	14	缶バッジづくり	26
ミニ埴輪づくり	522	合計	9,206



「グループ学習」

(2) 募集型体験学習メニュー

1) 実技講座

出土品や日本の伝統文化に関連した「モノづくり」や原始・古代の技術を追体験することを目的に、受講者を募集して行う体験講座である。

平成30年度は、8講座（全13回）を実施した。クラフトテープを使ったかごづくりの「縄文ポシェットづくり」「六つ目編みのかごづく

り」は募集開始直後から多くの応募があり、関心の高さがうかがわれた。企画展に合わせた「石庖丁づくり」や新たに企画された「古代の塩づくり」は、アンケート結果を見ると参加者の満足度が高いことがわかった。

実技講座

イベント日	実施日	参加者数
縄文ポシェットづくり	平30. 5.26	11名
土器づくり初級編①形づくり	平30. 6.24	12名
カラムシから布をつくろう①刈り取り・苧ひき	平30. 7. 7	6名
カラムシから布をつくろう②糸づくり	平30. 7.14	6名
カラムシから布をつくろう③コースターづくり	平30. 8.11	5名
親子で石庖丁づくり	平30.10.14	10名
印章づくり	平30.11. 3	14名
六つ目編みのかごづくり	平30.12. 8	16名
古代の塩づくり①	平31. 1.13	12名
古代の塩づくり②	平31. 1.27	12名
縄文土器づくり上級編①形づくり	平31. 1.26	8名
縄文土器づくり上級編②文様づけ	平31. 1.27	7名
縄文土器づくり上級編③野焼き	平31. 3. 9	7名
合計		126名



「六つ目編みのかごづくり」

2) まほろんイベント

文化財と白河館の魅力を広く県民に伝え、利用者の幅を広げることを目的として実施するイベントである。

平成30年度は、4回実施した。「ゴールデンウィークまほろんまつり」「まほろん夏まつり」は、企画展にちなんで縄文時代をイメージさせる体験メニューを、「まほろん感謝デー」では弥生時代をイメージさせる体験メニューを中心に実施した。「まほろん冬まつり」は、過去に好評だった体験メニューを集めて実施した。

なお、地元の団体の協力による和太鼓演奏やアイシングクッキーづくりなども随時実施した。

まほろんイベント実施状況

イベント名	実施日	参加人数
GWまほろんまつり	平30. 5. 3～5	1,863名
まほろん夏まつり	平30. 7.22	444名
まほろん感謝デー	平30.11.18	720名
まほろん冬まつり	平31. 2.17	675名
合計		3,702名

3) まほろん森の塾

まほろん森の塾は、小・中学生を募集対象として実施する、通年型の体験学習講座である。昔のくらしや技術を体験することにより、参加者が文化財に対する理解と生きる力を身につけることを目的に実施している。

平成30年度は全6回実施した。土器製塩実験に基づく調理体験や、自作の石庖丁による稲の収穫などを行い、「まほろん感謝デー」において成果発表を行った。

まほろん森の塾実施状況

内容	実施日	参加人数
第1回 入塾式・製塩土器づくり・田植え	平30. 6.17	10名
第2回 土器焼き見学・箸作り・食体験	平30. 7.29	10名
第3回 畑整備・石庖丁づくり	平30. 9. 2	12名
第4回 塩づくり・竹串づくり・調理体験	平30.10.21	9名
第5回 活動報告会・企画展解説会参加	平30.11.18	11名
第6回 調理体験・活動記録作成・終了式	平30.12. 2	10名
合計		62名



まほろん森の塾

(3) 館外体験学習事業

本事業は、県内の学校や公民館などにおける体験学習の支援を目的とする事業である。白河館に来館することが困難な学校や諸施設を対象に、学芸員が収蔵資料と体験学習器材を携えて出向き、文化財と郷土史への理解を深めるために実施している事業である。

1) おでかけまほろん

小・中学校や特別支援教育諸学校の教諭と学芸員が協力して授業を行うプログラムである。平成30年度は、「土器や石器を観察しよう」「火おこしに挑戦」「勾玉づくり」「弓矢体験」「時代衣装体験」などを34校で実施した。



おでかけまほろん

2) まほろん出前講座

公民館などの生涯学習施設における「子どもクラブ」や「高齢者学級」等を対象としたプログラムである。平成30年度は、郡山市・二本松市・桑折町・広野町の4市町で実施した。体験活動の内容は、「土器や石器を観察しよう」「火おこしに挑戦」「勾玉づくり」である。

3) まるごとまほろん

地域住民を対象とする行事において、白河館に収蔵する資料を出展し、体験学習などを行うプログラムである。平成30年度は、全国植樹祭のほか、福島民報社・須賀川市文化スポーツ部・国立磐梯青少年交流の家・大玉村あだたらふるさとホール・国立那須甲子青少年自然の家が主催した7か所のイベントに参加した。

おでかけまほろん実施状況

番号	学校名	学年・科目	内容	実施日	参加人数
1	喜多方市立熱塩小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平30. 5. 9	8名
2	喜多方市立上三宮小学校	小5・6年、社会	土器石器観察・火おこし・弓矢	平30. 5. 9	10名
3	伊達市立小手小学校	小5・6年、社会・総合	土器石器観察・火おこし・弓矢	平30. 5. 10	10名
4	郡山市立大島小学校	小6年、社会	土器石器観察・道具使用体験・拓本体験・時代衣装体験	平30. 5. 16	109名
5	いわき市立豊間小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平30. 5. 17	18名
6	会津美里町立宮川小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平30. 5. 23	38名
7	川俣町立飯坂小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平30. 5. 24	12名
8	郡山市立薫小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし・紙かぶとづくり	平30. 5. 30	60名
9	本宮市立糠沢小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし・勾玉づくり	平30. 5. 31	33名
10	いわき市立錦小学校	小6年、社会・総合	土器石器観察・勾玉づくり	平30. 6. 6	45名
11	郡山市立高倉小学校	小5・6年、社会	土器石器観察・高倉城跡見学	平30. 6. 7	17名
12	伊達市立梁川小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし・弓矢	平30. 6. 13	86名
13	昭和村立昭和小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし・弓矢	平30. 6. 14	4名
14	矢祭町立矢祭小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平30. 6. 20	43名
15	福島県立聴覚支援学校	小2～6年、社会・総合	土器石器観察・火おこし	平30. 6. 21	11名
16	喜多方市立豊川小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平30. 6. 27	16名
17	喜多方市立駒形小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平30. 6. 27	12名
18	二本松市立安達太良小学校	小5・6年、社会	土器石器観察・火おこし	平30. 6. 28	9名
19	福島県立たむら支援学校 高等部	高等部、社会・生活	土器石器観察・勾玉づくり	平30. 7. 5	15名
20	福島県立須賀川支援学校医大校	小2・5・6年、社会	土器石器観察・拓本体験	平30. 8. 29	6名
21	大玉村立大山小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平30. 8. 30	41名
22	磐梯町立磐梯第一小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし・弓矢	平30. 9. 5	20名
23	二本松市立石井小学校	小6年、社会	土器石器観察・勾玉づくり	平30. 9. 13	25名
24	田村市立常葉小学校	小6年、総合	土器石器観察・火おこし	平30. 9. 20	20名
25	本宮市立五百川小学校	小6年、社会	土器石器観察・弓矢・縄文衣装体験	平30. 9. 27	54名
26	平田村立小平小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平30. 10. 11	22名
27	磐梯町立磐梯第二小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平30. 10. 18	13名
28	いわき市立久之浜第二小学校	小1～6年、生活・総合	土器石器観察・火おこし	平30. 11. 1	21名
29	伊達市立伊達東小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし・勾玉づくり	平30. 11. 15	23名
30	福島県立あぶくま支援学校	中学部3年、生活単元学習	土器石器観察・弓矢・時代衣装体験・ドキ土器スタンプ	平30. 11. 28	24名
31	福島県立聴覚支援学校会津校	小学部3・6年、社会・自立	土器石器観察・勾玉づくり	平30. 11. 29	2名
32	南相馬市立原町第二小学校	小6年、社会	土器石器観察・勾玉づくり	平30. 12. 6	21名
33	福島県立須賀川支援学校	小・中学部全学年、社会・総合	土器石器観察・火おこし・弓矢・時代衣装体験・勾玉づくり	平30. 12. 19	12名
34	福島県立たむら支援学校 小・中学部	小・中学部全学年、生活単元学習	土器石器観察・時代衣装体験・ドキ土器スタンプ・風づくり	平31. 1. 10	35名
合計					895名

まほろん出前講座実施状況

番号	団体名	学年・年齢	内容	実施日	人数
1	広野町立広野小学校放課後子ども教室	小4～6年	土器石器観察・火おこし	平30. 9. 6	32名
2	郡山市立大槻東公民館	小3～6年	土器石器観察・勾玉づくり	平30. 11. 10	6名
3	桑折町中央公民館	小4～6年、一般	土器石器観察・火おこし	平30. 11. 11	29名
4	二本松市岳下公民館	一般	土器石器観察・勾玉づくり	平30. 12. 13	38名
合計					105名

まるごとまほろん実施状況

番号	場所	年齢	内容	実施日	人数
1	全国植樹祭白河PR会場	未就学児～一般	原始模様のペンダントづくり	平30. 6. 10	20名
2	うすい百貨店（郡山市）	未就学児～一般	勾玉づくり・縄文風ペンダントづくり	平30. 8. 7 ～8. 8	360名
3	須賀川アリーナ（須賀川市）	未就学児～一般	弓矢、復元資料・毛皮等の展示	平30. 10. 7	510名
4	国立磐梯青少年交流の家（猪苗代町）	未就学児～一般	弓矢、復元資料・毛皮等の展示	平30. 10. 14	130名
5	国立那須甲子青少年自然の家（西郷村）	未就学児～一般	弓矢、復元資料・毛皮等の展示	平30. 10. 21	240名
6	あだたらふるさとホール（大玉村）	小学生・一般	缶バッジづくり、火おこし体験、勾玉づくり	平30. 10. 27	116名
7	那須高原ビジターセンター（栃木県那須町）	未就学児～一般	白河館施設・事業・収蔵品紹介展示	平30. 11. 17 ～11. 18	1,841名
合計					3,217名

4) ネットでまほろん

遠隔地の学校や、障がいを持っているため来館して体験活動を行うことが困難な学校を対象としたプログラムである。白河館と会場をインターネット回線によるテレビ電話で結び、授業を行うものである。しかし、ネットを介してではなく、できるだけ本物に即した学習をさせたいという学校側からの要望に応え、「おでかけまほろん」を実施したため、本プログラムの利用はなかった。

5 文化財に関する情報発信

1. ホームページによる情報発信

平成30年度のホームページアクセス数の推移を別表に示した。年間総アクセス数は46,522件であった（前年度：46,602件）。平成27年度以降は46,000～48,000件で推移している。

なお、平成13年7月14日のホームページ開設以来の累計アクセス数は、76万件を超えた。

ホームページアクセス数

	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	4,603	725,399
5月	4,871	730,270
6月	3,933	734,203
7月	4,160	738,363
8月	4,610	742,973
9月	3,795	746,768
10月	4,139	750,907
11月	3,904	754,811
12月	3,136	757,947
1月	2,801	760,748
2月	3,180	763,928
3月	3,390	767,318
合計	46,522	

2. データベースによる情報提供

(1) アクセス数の推移

平成30年度の総アクセス数は、165,653件と、前年度（138,908件）より増加した。東日本大震災発生後の復興関連工事にとまなう需要により、平成26年度は80万件を超えるアクセスがあったが、以降は減少し、15万件前後のアクセス状況となっている。

なお、平成30年度の月ごとの各データベースのアクセス数は、別表のとおりである。

データベースアクセス数

	総アクセス数	各アクセス数			
		遺跡	遺物	文献	写真
4月	24,454	3,505	16,555	2,293	2,101
5月	18,491	2,824	12,055	1,937	1,675
6月	15,946	2,686	10,525	1,501	1,234
7月	34,008	6,252	21,459	4,696	1,601
8月	13,178	3,237	7,399	1,658	884
9月	6,746	1,972	3,608	678	488
10月	8,259	2,168	4,052	403	1,636
11月	5,097	2,627	1,729	460	281
12月	8,394	2,237	5,524	328	305
1月	11,005	1,961	8,106	462	476
2月	9,597	1,905	6,557	493	642
3月	10,478	2,915	6,421	705	437
合計	165,653	34,289	103,990	15,614	11,760

(2) データの入力

新規入力数（テキスト）を別表として示した。合計入力数は6,269件である。

データ入力一覧

種類	入力数	削除数	累計（点）
遺跡（基本データ）	2	0	13,853
遺跡（調査台帳）	8	0	4,459
遺物	1,859	0	267,258
遺物写真	1,277	0	21,522
写真	780	0	63,146
文献	2,343	0	20,949
合計	6,269	0	391,187

3. まほろん通信の発行

平成30年度は、年4回発行した。発行日は、4月13日・6月29日・9月28日・1月11日で、各4,000部を発行した。概要は、以下のとおりとなっている。

- （1）まほろん通信vol.67（春号4月13日発行）
- ・特集「ようこそ！JOMONワンダーランドへ！」
- ・シリーズふくしまの文化財を探る！1「福島県に“国宝”はいくつある？之巻」

- ・シリーズ収蔵資料紹介27「徳定A子のつぶやき」
- ・コラム「特集展『戊辰戦争と考古学』」
(2)まほろん通信vol.68(夏号6月29日発行)
- ・特集「企画展『縄文土器の逸品』へのいざない」
- ・シリーズまほろん回顧録3「愛称“まほろん”～その由来～之巻」
- ・シリーズ遺跡発掘最新情報3「伊達郡桑折町新宿遺跡」
- ・コラム「考古学の実測図とは」
(3)まほろん通信vol.69(秋号9月28日発行)
- ・特集「これが弥生の天王山」
- ・シリーズまほろんのヒミツ9「あの“なぞ”の2体のマネキンの正体とは!?之巻」
- ・コラム「『丸木舟づくりへの思い』―復元品製作のすすめ―」
- ・特集「まほろんみどころ情報 常設展示『みんなの研究ひろば』について」
(4)まほろん通信vol.70(冬号1月11日発行)
- ・特集「ふくしまに残る災害痕跡」
- ・シリーズふくしまの文化財をみる2「福島県



まほろん通信vol.69

内の歴史的建物と建築年代」

- ・シリーズ収蔵資料紹介28「底抜け土器と円盤」
- ・コラム「ガヴァドンとイノシシ」

6 文化財に関する研修事業

1. 研修実施の概要

文化財関係業務を担当する市町村等の職員や教職員等を対象に、文化財の保護・活用に必要な知識と技術を習得するための研修を行った。平成30年度は、「基礎研修」「専門研修」のほか、市町村からの要望に応じて館内外で臨時的に行う「特別研修」を実施した。

2. 研修実施状況

(1) 基礎研修

6回の基礎研修を企画し、うち4回を実施した。考古資料の実測図化の実習を行う「考古資料研修」と遺跡の測量実習を行う「教職員等発掘調査体験研修」については、参加者の応募がなかったため中止した。

①「文化財保護・活用基礎研修」は、文化財保護に必要な調査・保管・活用等に関わる基礎知識についての研修である。今回は、遺跡から出土する繊維製品について、種類や技術変遷等の基礎知識や、取り上げ方法・保存方法について、白河館学芸員の平間堯明が全国での事例を交えながら説明した。

②「無形の文化財研修」は、平成31年4月施行の改正文化財保護法の要点と、「歴史文化基本構想」策定や「民具の活用と映像記録作成」等に関する参考事例を、白河館専門学芸員の大山孝正が解説した。

③「地方史研修」は、県内の地方史を学ぶ研修で、2回実施した。

第1回は白河館学芸課主幹の吉田功が、弥生時代後期から古墳時代へ移行する時期に築造された様々な周溝墓や古墳、また、白河市の建鉾山祭祀遺跡に代表される県南地方の古墳時代の遺跡の特質など、長年の調査研究を通して得た知見を幅広く解説した。

第2回は、当財団遺跡調査部（公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターから出向）の後藤信祐が、縄文時代中期から後期初

頭の栃木と福島について、両者を比較した講義を行った。

両回とも、白河館収蔵資料を会場に展示した。実物資料を前にして、参加者と講師による活発な意見交換がなされた。



地方史研修

（２）専門研修

４回の専門研修を実施した。

①「文化財保護・活用専門研修」は、文化財保護に必要な調査・保管・活用等に関わる専門的知識・技能を習得する研修である。今回は、

東京文化財研究所保存科学センター長の佐野千絵氏が、有機質文化財の保存について解説した。様々な材質の特徴、保存環境の考え方、保存処理作業における化学物質リスクアセスメントなどが紹介された。

②「文化財保護指導者研修会」は、市町村の文化財保護審議委員等を対象に、毎年会場を変えて行う研修会である。平成30年度は、いわき市を会場として実施した。白河館館長の菊池徹夫が、縄文文化の性格・特徴とその世界史上における位置づけについて講演し、いわき市文化財保護審議会委員の田仲桂氏が、じゃんがら念仏踊・三匹獅子舞・大和舞の継承の取組みについて、実演を交えながら解説した。福島県教育庁文化財課の佐藤実氏は、文化財保護法改正の概要を説明した。２日目は、いわき市考古資料館と県指定重要文化財である住吉神社を見学した。

③「考古学専門研修」は、考古資料の観察法や編年などの専門知識を学ぶ研修である。今年度は企画展「白河市天王山遺跡の時代」と関連した研修を実施した。白河館学芸員の笠井崇吉を講師として、福島県内の弥生土器の変遷過程や着眼点などについて、会場に土器を展示して解説した。

文化財研修実施状況

区分	研 修 名	講 師	実施日	受講者数	場所
基礎研修	文化財保護・活用基礎研修「繊維と考古学に関する基礎知識」	平間堯明（白河館職員）	平30. 7. 1	7名	白河館
	無形の文化財研修「無形民俗文化財保護の考え方ー文化財保護法の改正を受けてー」	大山孝正（白河館職員）	平31. 1.19	6名	白河館
	地方史研修Ⅰ「ふくしまの古墳時代の幕開けーそして建鉾山祭祀遺跡へー」	吉田 功（白河館職員）	平31. 2.23	23名	白河館
	地方史研修Ⅱ「縄文時代の栃木と福島ー袋状土坑・複式炉・配石と土器棺墓のころー」	後藤信祐（福島県文化振興財団遺跡調査部）	平31. 3.10	23名	白河館
専門研修	文化財保護・活用専門研修「有機質文化財の保存について」	佐野千絵（東京文化財研究所）	平30. 7. 1	10名	白河館
	考古学専門研修「弥生土器のみかた」	笠井崇吉（白河館職員）	平30.10.13	28名	白河館
	文化財保護指導者研修会	菊池徹夫（白河館館長） 田仲 桂（いわき市文化財保護審議会委員） 佐藤 実（福島県教育庁文化財課）	平30.10.30 ～31	延べ 123名	いわき市
	文化財と関連科学研修「災害痕跡の把握について」	卜部厚志（新潟大学災害・復興科学研究所）	平31. 3.10	22名	白河館
研特 修別	職員派遣研修「弥生土器観察学習会」	笠井崇吉（白河館職員）	平31. 3.15	28名	会津若松市



考古学専門研修

④「文化財と関連科学研修」は、遺跡・遺構・遺物の分析や保存などに関する科学的知識を学ぶ研修である。平成30年度は新潟大学災害・復興科学研究所のト部厚志氏を講師として、「災害痕跡の把握について」と題する研修講座を実施した。縄文時代に起こった沼沢火山の爆発などを例に取りながら、火山災害と洪水イベントを遺跡の地層から読み取る方法が解説された。

（3）特別研修

平成30年度は、会津若松市教育委員会からの要請に応じ、会津若松市において弥生土器に関する研修を1回実施した。

（4）課題

平成30年度は、2件の研修に対して受講希望者がいないという事態となった。埋蔵文化財の調査技術や出土品整理技術に関する研修は、自治体文化財担当者のニーズに合わなくなっていることが明らかとなった。これを踏まえ、令和元年度以降の研修課程については大幅な見直しを図ることとした。

7 文化財の活用に関する調査研究

1. 放射性炭素年代測定と炭素・窒素安定同位体比分析

白河館に収蔵されている土器に付着した炭化物を対象として、加速器質量分析による放射性炭素年代測定と炭素・窒素安定同位体比分析を実施する事業である。

分析は、平成26年度から平成30年度までの

5年間、継続して行った。平成30年度は、これまでの分析結果により、補足する必要が生じた土器型式や、これまで対象としていなかった土器型式の20点について分析を実施した。

2. 研究紀要

放射性炭素年代測定等の研究成果や、展示資料に関する研究、博物館学的な研究などの成果を『研究紀要2018』に掲載し、発行した。

8 ボランティアの運営

1. 募集

平成30年度は、前年度同様、ボランティアを随時募集し、月毎に登録を行った。

申し込み資格は、①平成30年4月1日現在で16歳以上、②無償で活動できる方（保険料は白河館負担）である。

2. 登録

ボランティアの名称を『まほろんボランティア』と呼び、登録形態は「個人登録ボランティア」としている。ボランティアの登録状況は下表のとおりである。

まほろんボランティア登録状況

平成30年度登録者数	29名 (男性13名・女性16名)
内訳	
1. 最年少 16歳	
2. 最年長 81歳	
3. 平均年齢 55歳（男性52歳、女58歳）	
（平成31年3月31日現在）	

3. 活動内容

主な活動内容は以下のとおりである。

- 屋内展示、野外展示の案内・解説
- 展示業務への参加
- 体験学習活動（実技講座・団体対応等）への協力
- イベントの自主企画及び運営
- 体験学習器材の製作
- 野外展示施設の火焚き燻蒸



野外展示の火焼き燻蒸

4. 受け入れ体制

白河館のボランティア活動は、昼食や交通費を支給しない無償・無給制を原則としている。しかし、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休憩場所の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。

また、学芸課に3名のボランティア担当者を配置し、スケジュールや活動内容の調整を行っている。意見交換の場として、平成30年度は計8回の会合（まほろんボランティア連絡会）を開催した。

9 その他

1. 年報2018の発行

平成29年度の館の管理運営実績をまとめた年報を作成し、市町村教育委員会や学校等の関係機関に配布した。

2. 運営協議会の開催

館長の諮問機関として、福島県文化財センター白河館運営協議会を組織し、会議を2回開催した。

なお、平成30年度の委員6名は次のとおり。

- ・藤沼 邦彦：元弘前大学教授、再任
- ・日下部善己：元二本松市立岳下小学校長、再任
- ・平出美穂子：元郡山女子大学准教授、再任
- ・佐久間芳雄：西白河小中学校長連合協議会長
- ・鈴木 隆之：白河市建設部文化財課長
- ・津久井 賢：国立那須甲子青少年自然の家所長

（1）第1回運営協議会

開催日：平成30年10月6日（土）

場所：講堂

議事

- ・平成29年度白河館の事業実績について
- ・平成30年度白河館の運営状況について
- ・平成31年度白河館の事業について
- ・その他

（2）第2回運営協議会

開催日：平成31年3月2日（土）

場所：講堂

議事

- ・平成30年度白河館の運営状況について
- ・平成31年度白河館の事業計画について
- ・その他

3. 博物館実習

県内の大学生や、県内出身者で県外の大学に通う大学生を対象として、館内において博物館実習を行った。

4. 被災ミュージアム再興事業

福島県教育委員会からの委託事業として、被災ミュージアム再興事業を実施した。

原子力災害による避難指示区域内の資料館から白河館仮保管施設に移送された文化財等について、資料の修理安定化、データベース入力、応急的劣化防止作業などを実施した。

5. 他機関との連携

自治体・教育普及機関・研究機関等と連携して、以下の事業を実施した。

（1）シンポジウムの共催

内容：ふくしま歴史資料保存ネットワーク主催
シンポジウム「ふくしまの未来へつなぐ、伝えるⅡ」

実施日：平成30年4月21日（土）

場所：郡山市民プラザ大会議室

参加者数：80名

（2）まほろん移動パネル展「双葉高校史学部
の歩み」の実施

1）福島県立図書館

会期：平成30年5月3日（木）～6月6日（水）

観覧者数：887名

2) 富岡町図書館

会期:平成30年7月7日(土)～8月20日(月)

観覧者数:2,139名

3) 福島大学附属図書館

会期:平成30年11月7日(水)～11月28日(水)

観覧者数:1,225名

4) 楡葉町コミュニティーセンター

会期:平成30年12月15日(土)～平成31年3月
17日(日)

観覧者数:444名



まほろん移動パネル展「双葉高校史学部歩み」

(3) 福島県立図書館との連携

内容:移動図書館(あづま号)コーナー設置及
び企画展関連図書の展示

実施日:平成31年2月17日(日)「まほろん冬
まつり」

場所:白河館正面玄関前ほか

(4) ふくしま海洋科学館との連携

内容:移動水族館(アクアラバン)開催

実施日:平成30年11月17日(土)・18日(日)
「まほろん感謝デー」

場所:白河館正面玄関前

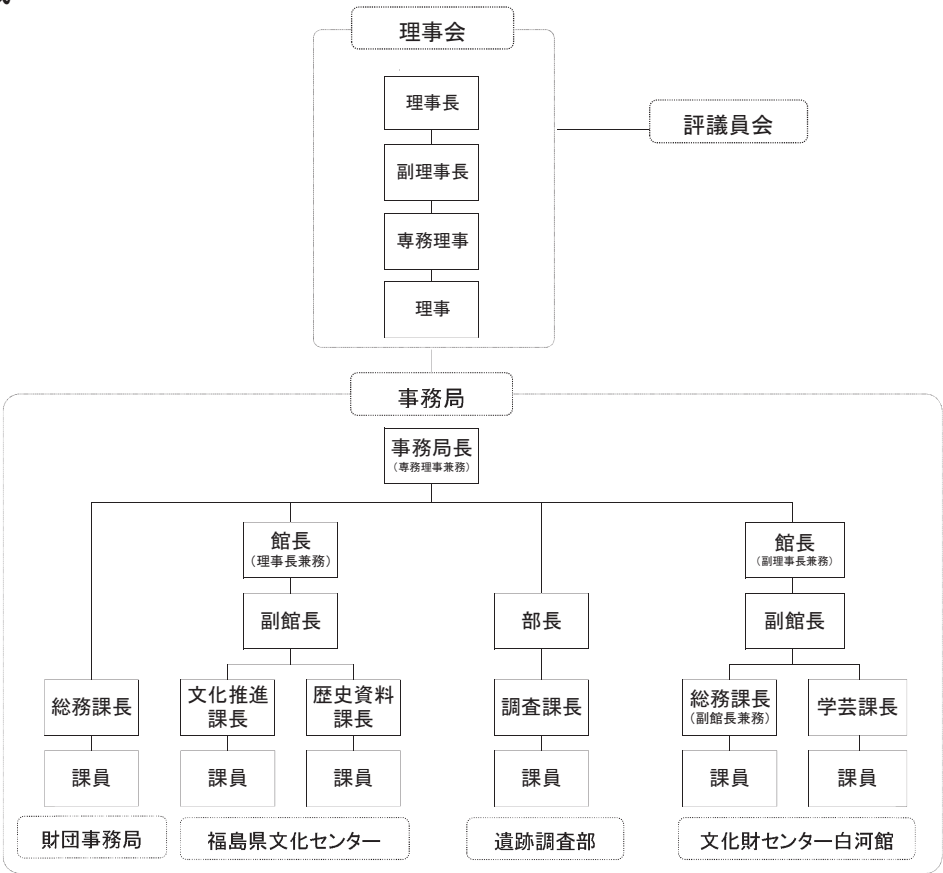
観覧者数:913名



移動水族館(アクアラバン)

第3章 平成30年度の組織と管理運営費

1 組 織



職員名簿

職 名		氏 名	職 名		氏 名
館 長		菊 池 徹 夫	学 芸 課	専門学芸員	門 脇 秀 典
副 館 長		鵜 澤 義 孝		専門学芸員	笠 井 崇 吉
総務課	課長（兼務）	鵜 澤 義 孝		専門学芸員	三 浦 武 司
	副 主 幹	山 田 幸 則		主任学芸員	廣 川 紀 子
	主 査	八 巻 裕美子		学 芸 員	平 間 堯 明
	臨時職員	金 澤 明 希		学 芸 員	太 田 勇 陽
	臨時職員	長 田 ちひろ		嘱 託	山 内 幹 夫
				臨時職員	高 木 茜 音
学芸課	課 長	本 間 宏		臨時職員	渡 邊 あかり
	主 幹	吉 田 功		臨時職員	佐 藤 百合恵
	副 主 幹	山 元 出		臨時職員	原 宏 子
	副 主 幹	阿 部 知 己		臨時職員	松 浦 里 美
	専門学芸員	小 暮 伸 之	職員総数 24 名		
	専門学芸員	大 山 孝 正			

(平成31年3月31日現在)

2 管理運営費

・ 指定管理者委託料 239,733千円

第4章 白河館施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館

(愛称：まほろん)

所在地：〒961-0835

福島県白河市白坂字一里段86番地

設置者：福島県

開館：平成13年7月15日

管理機関：公益財団法人福島県文化振興財団

◎建築概要

1. 敷地面積：51,827.51㎡
2. 建築面積：本館・収蔵庫棟 5,866.328㎡
体験学習館 133.627㎡
3. 延床面積：本館・収蔵庫棟 5,399.815㎡
(本館2,400.046㎡、収蔵庫棟 2,999.769㎡)
体験学習館 92.71㎡
4. 構造
 - ①本館棟 鉄筋コンクリート造
 - ②収蔵庫棟 鉄骨造
 - ③体験学習館 木造
5. 駐車台数等
 - ①一般駐車場 91台 (うち身障者用4台)
 - ②大型車駐車場 10台
 - ③職員駐車場 21台
 - ④駐輪場 28台
6. 地域地区：都市計画区域内、無指定

◎設備概要

1. 電気設備：
 - ・受電方式／高圧6.6KV 1回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電50KVA
 - ・非常照明設備：建築基準法に基づいて設置
 - ・放送設備：非常放送と兼用、出力240W
 - ・電気時計設備、テレビ共同視聴設備、インターホン設備
 - ・電話設備：電子交換機、外線4回線、内線55回線
 - ・監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停制御及び計測監視

2. 空調設備

- ・空調方式
一般系統／ガスエンジン空冷HPマルチパッケージ方式 (一部空冷HP) + 静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト (空冷冷専パッケージ+電気ヒーター+アルカリ除去フィルターユニット) 方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト (ガスエンジンHPP) 方式
- ・熱源：簡易ガス (ガス種別：プロパン)

3. 衛生設備

- ・給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水：屋内分流・屋外合流 (最終柵でポンプアップ) 方式で下水道本管へ放流
- ・雨水：側溝放流
- ・多目的便所：屋内1箇所 (男女別)、屋外1箇所 (男女別)、トイレ呼出設備付

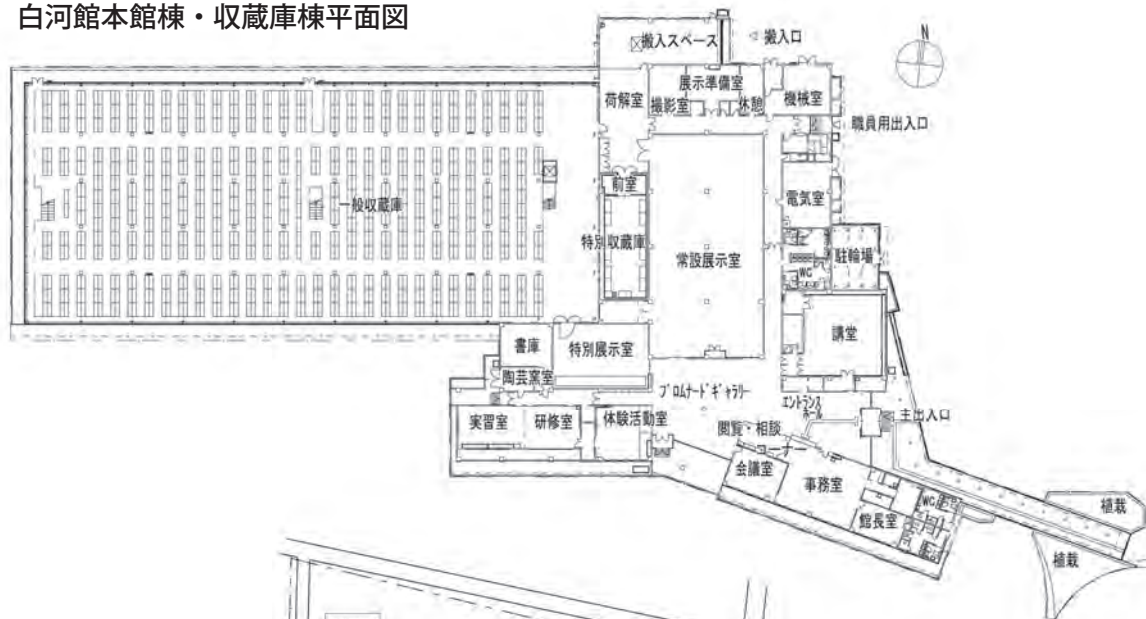
◎建築工事工期

- ・着工：平成11年7月12日
- ・完成：平成12年10月16日

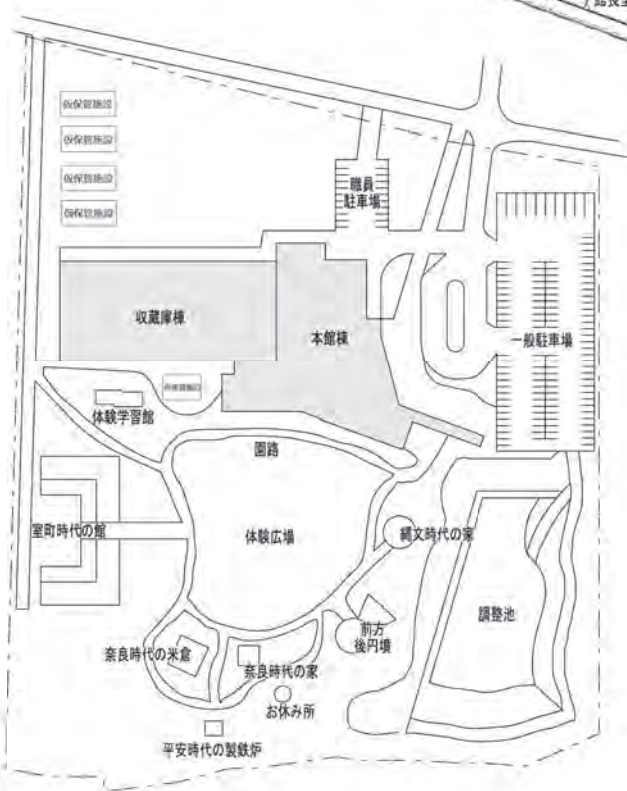
◎総建設費 3,300,625千円

- ・内訳 建築費 2,690,848千円
- 公有財産購入費 222,095千円
- その他の経費 387,682千円

白河館本館棟・収蔵庫棟平面図



白河館敷地平面図



主要諸室面積表 (㎡)

室 名	面積	備 考	室 名	面積	備 考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚2層目部分 2,263㎡
陶芸窯室	16		警備員室	22	
観覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合 計	5,400	
印刷室	16		体験学習館	93	
救護室	9		仮保管施設	889	5棟 (194㎡×4棟+113㎡)

第5章 白河館の条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日 福島県条例第43号)

(設置)

第一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第二条 白河館は、白河市白坂字一里段八十六番地に置く。

(平一八条例五一・一部改正)

(業務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。

- 一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- 二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- 三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- 四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- 六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- 七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(指定管理者による管理)

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例(平成十六年福島県条例第六十八号)の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(平一七条例一〇七・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲等)

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

- 一 第三条各号に掲げる業務に関すること。
- 二 白河館の維持管理に関すること。
- 三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。
- 2 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。
- 3 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報(個人に関する情報であって、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。)その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

(平一七条例一〇七・追加)

(遵守事項)

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わないこと。

五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(平一七条例一〇七・旧第四条繰下)

(入館の規制等)

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

一 前条の規定に違反した者

二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者

三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(平一七条例一〇七・旧第五条繰下・一部改正)

(使用料の不徴収)

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

(平一七条例一〇七・旧第六条繰下)

(委任)

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平一七条例一〇七・旧第八条繰下)

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行)

附 則(平成一七条例一〇七号)

1 この条例は、平成一八年四月一日から施行する。

2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手続は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

附 則(平成一八条例第五一号)

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(平成13年3月27日 福島県教育委員会規則第3号)

(休館日)

第一条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和二十三年法律第七十八号)第三条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者(福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(開館時間)

第二条 白河館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時までとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育長の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(文化財等の特別利用)

第三条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委 任)

第四条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成十三年福島県条例第四十三号）の施行の日から施行する。（施行の日＝平成一三年七月一五日）

附 則（平成一七年教委規則第一六号）

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

白河館の利用案内

開館時間 ・ 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休 館 日 ・ 毎週月曜日（国民の祝日の場合はその翌日、GW・夏休み期間中は開館）
・ 国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）
・ 年末年始（12月28日～1月4日）

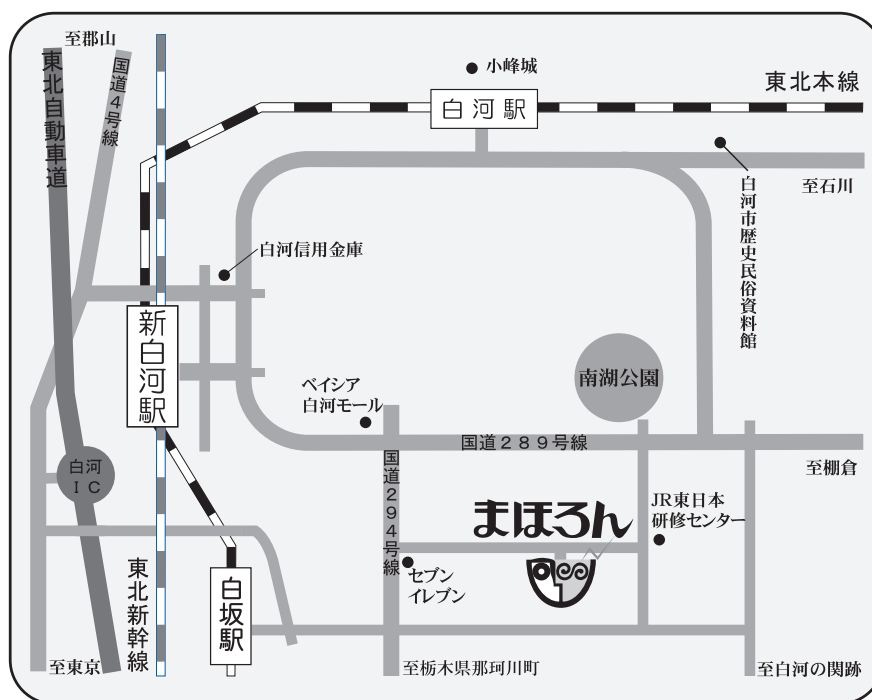
入 館 料 ・ 無料

交通案内 ・ JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅から白河市循環バスまたは、福島交通バス（白坂・白坂駅行き）まほろんバス停下車

・ JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅からJRバス（棚倉行き）南湖公園バス停下車徒歩25分

・ 東北自動車道白河ICから車で20分

そ の 他 ・ 屋内、屋外に多目的トイレを備えています。車いす、ベビーカーも用意しています。



福島県文化財センター白河館 年報 ～平成30年度実績～

令和元年 1 2 月 2 7 日発行

編集・発行 公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835 福島県白河市白坂一里段 86 番地
TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075
<http://www.mahoron.fcp.or.jp>
